

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

##### 主任教授・男性

##### \*\*よくなった

- ・「ながら」で学べる機会が増えた
- ・ICT 機器、ソフトの利便性が格段に向上し、業務を遂行しやすくなった。
- ・アクセスが良くなった
- ・オンデマンドに何回でも学習できるため。
- ・オンライン、オンデマンドコンテンツの増加
- ・オンラインで録画され、後からオンデマンドで観ることが出来るなど便利になったから。
- ・オンラインにより、学生は繰り返し学習が可能となった。自ら学ぶ事が必要になった。
- ・オンラインの利点はあるが、オンラインだけだと、学生にとってはコミュニケーションスキルの形成、孤独への対応(学生同士の一体感形成)等、明らかに問題もある。
- ・オンラインの利用で、気軽に学生試問などを行うことができるようになった。
- ・オンライン環境があればどこにいても教育が可能。
- ・オンライン授業が進み、準備が容易になった。
- ・お互いに気軽に時間を取れる
- ・かえて多くの人と話す機会が増えたので。ただし、プライベートな語りは減少。
- ・移動がないことがメリット。もちろん全部オンラインは良くない。
- ・移動などの無駄な時間が節約された
- ・移動に使う時間が激減した。
- ・移動の時間を減らすことで効率化が得られている。
- ・移動時間が減って、時間調整がしやすくなった
- ・移動時間が無くなり予定変更せずに学生に接することができる
- ・移動時間は非常に減少した。地方に住む 人間にとっては僥倖。
- ・移動時間を取られないので必要な情報を入手しやすくなったため。
- ・遠隔講義は、楽。
- ・往復の時間がなくなって時間が有効に使える
- ・何時でも聴講できる
- ・会議に出張する必要が減った。
- ・学生が何回も講義を聴講できるから
- ・教育セミナーのオンデマンド配信は教育効果を上げるのに有効と思う。
- ・教育のために勉強する時間が増えた。
- ・教育の多様性が増したから。
- ・教育的なセミナーにどこにいても参加できるようになった。
- ・教育方法の多様化や日程の柔軟性の面が向上した。
- ・均一化できた
- ・欠席している学生が授業に参加できる
- ・現地に行く必要がなく、移動時間を有効に使える
- ・講義、学会参加がしやすくなった
- ・講義の準備や実施における時間調整が容易になり、手間も省けるようになった。
- ・講義の内容は学生に届きやすくなった。双方向性の授業が簡単になった。
- ・最新の知識などを吸収するタイプのセミナーについては、移動時間や場所の制約から解放されて、メリットを感じる一方、対面での機微な情報交換や人脈形成が不十分。
- ・在宅学習が可能になった。
- ・参加しやすいので内容・質は向上したと思う
- ・参加率が高くなった。資料の配布が容易となった。スライドを間近でみられる。
- ・紙資料の配付が減った
- ・時間が確保しやすくなった
- ・時間が効率的に使える
- ・時間外でも参加しやすい
- ・自宅などでの参加が可能となった。
- ・自分の好きな時間に視聴できる。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 自由な時間に勉強ができる
- ・ 出向くために要する時間が省ける
- ・ 出張が減った
- ・ 場所と時間の制約が減少したため
- ・ 対面でないことの短所はありますが、教育業務の準備などは効果的、効率的になったと考えるため。
- ・ 対面とオンラインを併用することで効率的に時間を使えるようになった
- ・ 対面の意義がより強調されるようになり、有意義に時間を費やすようになった。
- ・ 大学にいたることができる時間が増えた
- ・ 大学にいた時間が増えたため
- ・ 地方からも参加可能
- ・ 地方に住んでいるので、移動の時間がなくなり、その分を教育業務に使える。
- ・ 聴講する側のメリットがあるのでは
- ・ 非常に便利です
- ・ 必要に応じてオンライン・オンデマンドも併用できるため。
- ・ 不要な移動がなくなり、その分の業務時間の確保ができるようになった。
- ・ 暴露される機会は増えたので。
- ・ 無駄な時間、旅費が無くなった
- ・ 様々なツールを用いて教育効果を高めることが容易となった。
- ・ 利便性は向上した
- ・ 両面ある。オンラインの方が優れている面もあるが、モチベーションは保ちにくい。格差が開いている
- ・ 良い点:講義資料がいつでも見られる 悪い点:質問しづらい

#### \*\*変わらない

- ・ アクセスしやすくなり良い点もあるが、アライバ的な視聴(画面のまえには学生がいらない)こともあり、学生のやる気や心構えが問われていると思う。
- ・ オンラインでの講義の内容には制限があるため
- ・ オンラインでも学生同士の討論などを行い、登校授業と変わらないようにしている
- ・ オンラインに慣れてきたため。
- ・ オンラインのための準備も増えた。
- ・ どちらとも言えないと思う。会議や自分が発表する学会には移動がなく参加できて利便性は向上した。特に少人数の会議に関しては参加しやすく、web にも慣れてきたのでしっかりと行け交換も出来て良いと思う。しかし、学会での議論や講義に関しては、face to face でない分、一方向的な面が多く、内容は希薄で質は低下した気がする。
- ・ ハイブリッド形式では以前の対面授業と大きな差異はない
- ・ メリットとデメリットで相殺されている。
- ・ やる事に変わりはないから
- ・ 以前から全力なので
- ・ 教育に対する熱は下がった。学生も講義の熱を感じにくくなったと思う。
- ・ 教育に費やす時間は変わらない
- ・ 教育の時間を削って学会活動をしていたわけではない。
- ・ 教育の準備にかかる時間を含めてそれほど大きな変化は無いように感じています。
- ・ 業務に変化はないが、学生の理解の状況を把握しながらの講義がしづらくなった。
- ・ 業務自体は同じだから。
- ・ 講義で使用するスライドには変わりが無いため
- ・ 講義については熱が伝わらない。会議も東京まで行く時間が節約できるが、議論が深まらず形式的になる。学会は参加者が増えて知識吸収の場としては良くなったが議論が深まらず、あらたな発見力は低下した。両面ある。良くなった面と、悪くなった面があるので総和で変わらない。
- ・ 講義に関してはオンラインのために双方向性を確保することが難しい。
- ・ 参加する学会は変わらないから。
- ・ 参加できる講義・会議の数は増加する一方、講義・会議の質の低下はあるため
- ・ 参加機会が増えても、働き方改革等で参加できないため。
- ・ 実感ができていない。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 準備にかかる時間は変わらない。学生講義も結局対面に戻った。
- ・ 準備に時間がかかるが、慣れたので。
- ・ 準備に要する時間は同じ
- ・ 善し悪し両面があり、プラスマイナスゼロという印象
- ・ 対面形式も併用しているため。
- ・ 特に変わっていないから。
- ・ 二つにわかれます。一方通行の教育(古典的な講義、単位取得目的)は、オンラインは有効です。遠方の方も参加できます。しかし、Active learning のような Small group discussion を行うには、技術を要します。不可能とは言いませんが、対面(オンサイト)が必要です。
- ・ 余分な準備業務が増えただけで、実質は変わりなし。
- ・ 良い点、悪い点 両方ある
- ・ 良い点:対面では講義室の隅で講義に集中できなかった学生がより講義に向き合えるようになった。
- ・ 悪い点:学生の反応がわからない。学生が質問しづらい。
- ・ 良い面、悪い面、両方あるので、自らやる人には良い環境ですが、他力本願の人には厳しいと思います。
- ・ 良い面と悪い面が拮抗
- ・ 良くなった点(便利)もあれば悪くなった点(対面でない)もあるため
- ・ 良くなった点と悪くなった点の両方があり、一概には判定困難だと思います。

#### \*\*悪くなった

- ・ e-ラーニング、自習と変わらない。コミュニケーション能力を磨く教育ができない。
- ・ Face-to-face が教育には良い
- ・ Face-to-face でこそ実現できる人間同士の意思疎通が希薄になった。
- ・ ICT インフラが整備されていない。学生の通信費負担が大きい。
- ・ オンラインでは同じ内容でも時間がかかる
- ・ TBL ができなくなった。
- ・ WEB だけ良いという風潮が進んでいるように思われる
- ・ うまく伝わらない
- ・ オンデマンドでは、学生の授業態度が見えない。熱意が伝わらない。良い面もある。移動が不要、学生が時間を有効に使える。前問の選択肢には、「どちらとも言えない」の項目が必要。
- ・ オンデマンド授業は、学生が閲覧していない可能性がある
- ・ オンラインだと学生の理解度や反応が解らないため。
- ・ オンラインではインタラクティブにならない。
- ・ オンラインでは教育効果が不明であり、本来の教育のあるべき姿ではないから。
- ・ オンラインでは講義を真面目に聞かない。
- ・ オンラインでは細かいニュアンスは伝わらない
- ・ オンラインでは集中できない
- ・ オンラインでは十分な教育は不可能
- ・ オンラインで大学院生の教育がしづらい
- ・ オンラインの便利さで会議回数、時間が著増している。
- ・ オンラインは参加の際の教育密度が低下するほか、情報交換が著しく低下。
- ・ オンラインよりも対面の方がコミュニケーションが良好
- ・ オンライン講義では教育効果が低くなる傾向にあり、生成不良者への対応が多くなる。
- ・ オンライン講義を学生がまじめに聞いているとは思えない
- ・ オンライン授業では十分とは言えない
- ・ グループワーク、アクティブラーニングが実施し辛い
- ・ コミュニケーションが取れない
- ・ まだオンラインでの講義や会議が成熟しておらず、討論内容が浅くなる。
- ・ モニターの向こうで何をしているかが分からない
- ・ 医学生のコミュニケーション能力の低下が懸念される。
- ・ 学会現地参加という若手のモチベーションが低下した。
- ・ 学生がうまくサボることができるようになり、試験の点数が悪くなった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 学生が授業をないがしろにするようになった。
- ・ 学生との心の交流が減った
- ・ 学生と対面で直接話し合う機会が減ったから
- ・ 学生と直接関わることができない
- ・ 学生の意識が変わり、結果を求める傾向がより強くなったため。グループワークなどでも、ディスカッションというプロセスの意味をわかっていない学生が多い。
- ・ 学生の実習時間が減少した。
- ・ 学生の受講する質・姿勢が下がった気がします
- ・ 学生の反応が分かりにくい
- ・ 学生の雰囲気はわからない
- ・ 学生の様子がわからない
- ・ 学生の理解度が分かりにくくなった。
- ・ 学生はオンラインを流し見るだけ
- ・ 学生は参加しているだけで聞いていない可能性が高い
- ・ 患者に接する機会が減った。
- ・ 患者に直接接して行う実習が減った
- ・ 簡単に参加できる分機会が増えた。ハイブリッドの授業は準備が二度手間
- ・ 議論が希薄になりがち
- ・ 教育の効果は、対面で行ったときの方が大きいので。
- ・ 教育の質が下がった。
- ・ 教育効果は明らかに低下し、学生の理解度が二極化した。
- ・ 教員・学生のコミュニケーションが希薄になった。
- ・ 現状の方式によるオンラインでの講義や学会・会議では、基本的には情報の伝達が中心となりやすい
- ・ 講義に出てこなくなった。
- ・ 講義の内容に対する反応がわかりにくい。
- ・ 座学のみで、手技や技術の習得ができず、逆行している
- ・ 質の低下が起きた
- ・ 実際に聞いているのかどうか疑問がある
- ・ 実習等では対面が不可欠であるため。
- ・ 若い医師の研究意欲の低下
- ・ 収録や確認に時間がかかる。
- ・ 集中力が続かない 授業態度が見えない
- ・ 出席確認や受講態度がわかりにくくなった。電子化のため呈示できない資料が増えた。
- ・ 出張先で使えた教育資料作成時間が、オンラインだとそういう時間が捻出できず、勤務がむしろ増えてしまった
- ・ 情報の伝達効率は上がったかも知れないが、コミュニケーションの両方向性が崩れてきたように感じられる。
- ・ 身が入らない
- ・ 双方向性が減った
- ・ 相手の顔が見えないため
- ・ 相手の反応がわからないので講師のモチベーションが下がる。質問などの機会が減少した。
- ・ 対人関係の構築ができない
- ・ 対面が減り、活動に制限
- ・ 対面でしかわからないことが経験できない
- ・ 対面でないと緊張感がつたわらない、学生の真剣度が違う
- ・ 対面でないと十分な討論ができず、モチベーション低下につながる
- ・ 対面でないと伝わらないことが多い
- ・ 対面でないと反応が今ひとつわからない。
- ・ 対面でないので学生の様子がわからない
- ・ 対面でなくなったことから、教育業務への取り組みがやや低下した。
- ・ 対面でのコミュニケーションが減り理解を得るのに時間がかかるため
- ・ 対面でのやり取りができず、相手がどの様に考えているかその雰囲気が分かりづらいから。
- ・ 対面での繊細な内容に関する指導が出来辛くなった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 対面ではないため、話す側、聞く側ともに真剣さが低下
- ・ 対面で行う方がよい。
- ・ 対面で反応をみながら行うスモールミーティングの方が教育効果が高い
- ・ 対面に勝るものはない
- ・ 対面の教育がベストだと思います。
- ・ 対面の教育効果は大きいですがそれが失われたため。
- ・ 対面の方がコミュニケーションがよい
- ・ 対面の方が臨場感のある教育ができる。
- ・ 対面型と比較して、オンラインでは講義マテリアル作成に大きな時間を要する。大学内にそのサポートする人員が欠如しており、教員の負担増が著しい。
- ・ 対面講義でないと十分に伝わらない内容が一部あるため。
- ・ 知識偏重が強まった
- ・ 直接の対人指導の機会が低下した。
- ・ 直接学生の反応を見ながら話ができない
- ・ 直接対話による確認ができていない。オンラインでは意見が出ない。
- ・ 本音の議論が出来ない。
- ・ 本当に学会の講義を聞いているのか？
- ・ 要件のみの会議が多くなり、新しい情報や知識を得る機会が減った。
- ・ 臨場感がない、ながら視聴
- ・ 礼儀を欠く返事や意見が多い

#### 主任教授・女性

##### \*\*よくなった

- ・ オンデマンドコンテンツが繰り返し使える
- ・ 移動の時間や、それによる疲労がなくなった
- ・ 移動時間を勉強に使える
- ・ 育児中の女性医師が参加できる
- ・ 遠隔地での講義などがオンラインで可能になった
- ・ 繰り返し聴講が可能。ただし、オンデマンドを聴講する時間はなかなか取れない
- ・ 効率的
- ・ 参加しやすくなった。
- ・ 参加に関与する時間が減少した分、その時間を教育に充てることができる。
- ・ 参加者が増加している
- ・ 時間を有効に使える
- ・ 地方の大学勤務医なので、オンラインで学会に参加が容易になったため新しい情報に触れる機会が増えた。
- ・ 東京での会議が多かったのですがオンライン会議では異動時間が節約できる
- ・ 無駄な移動の必要性が激減した。

##### \*\*変わらない

- ・ オンラインを活用することで繰り返し学習が効率化したが、対面講義がないためコミュニケーションができない。以上より変わらないと回答した。
- ・ ディスカッションができず表面的な成果発表となりがちであるため
- ・ 教育の多くは、再度対面で行うようになっている為
- ・ 今まで会場へ移動していたのが、オンラインになっただけなので変化はない。
- ・ 準備に要する時間は同じだから
- ・ 便利になった反面、相手の反応が見えにくい、人とのネットワークを築きにくくなった

##### \*\*悪くなった

- ・ オンライン用に別の講義資料を用意したり、それらを upload するため時間を取られるようになった。
- ・ 学生とのコミュニケーションの低下
- ・ 講義を真剣に聞く緊張感がなくなる

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・質の低下
- ・対面でないので空気感が読みづらい
- ・反応がわからないので講義がやりにくい

#### 教授(主任以外)・男性

##### \*\*よくなった

- ・webinar が増えて、新しい知識を得やすくなりました
- ・Zoom で参加できるため、移動時間が解消された
- ・ウェブで講義が出来る
- ・オンデマンドですむ
- ・オンラインだと参加しやすく、移動の必要がなく、時間と金の無駄がなくなった。
- ・オンラインにより、移動時間がなくなった。
- ・お互いの時間が有効につかえる
- ・デジタル化が進むことは必要
- ・どこからでも参加できること
- ・プリント配布などが不要になった
- ・異時配信の場合は、何度でも、好きな時に視聴できるので、学生にとってはメリットになっている。
- ・移動時間が減ったことはある程度プラスには働いていると思う。
- ・移動時間が減少したぶん、まわすことができました。
- ・移動時間が節約できる
- ・移動時間の軽減と学内業務との業務区分が使い分けられた。
- ・遠隔での講義が可能となった。
- ・遠隔でもオンラインで講演の受講が可能になった
- ・遠隔地での学会に簡単に参加できるようになった。
- ・遠方の学会へも参加が可能となり、診療と研究を並行して行える機会がましました。
- ・会議のオンライン化は時間の節約になった
- ・学会参加しやすい。会議参加に費やす交通にかかる時間の節約
- ・簡単に参加できるから
- ・居室のままでできることが増えて、業務が効率的にできるようになった。
- ・現地に行かなくても済むのは学会の研修会という側面では大きいです。
- ・現地に赴く時間がなくなりました。
- ・現地参加による移動時間がなくなることが大きい
- ・現地参加以外でも参加できるようになったことで、情報収集が容易になった
- ・効率よく学会に参加できるようになりました。
- ・行けない学会にも参加できた
- ・講演や講義の質は下がったが数が増えたから
- ・講義や会議のための移動に費やす時間、コストが減った
- ・在院時間が増えたので
- ・参加が難しかった勉強会に参加出来る
- ・参加形態が多様化するのはいい。
- ・資料や講義方法の電子化が進んだので。
- ・時間を有効に使えるため
- ・時間場所を問わずに出来るようになった
- ・時間的制約は少なくなった
- ・出席できる会議や学会が増えた。
- ・出張が減って体力的には余裕ができた
- ・場所を選ばなくなった
- ・対面とオンラインの使い分けができるようになった
- ・対面式とオンデマンドの併用により、一部のオンデマンド講義は前年度作成したスライドを再利用できた。zoom を利用することで遠隔地の講義をすることが出来るようになった。
- ・単純な知識の伝達はオンラインで目的を達成できる

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 同じ内容の講義を複数回おこなわずにすみ、負担が軽減した
- ・ 普段参加できないような会に参加することができた。
- ・ 様々な形の教育ができるようになった。
- ・ 利便性がよい

##### \*\*変わらない

- ・ Web で十分。もう元には戻れない
- ・ オンラインかどうかは問題ではないと考えています。
- ・ オンラインでも同様のことを実施しているから。
- ・ オンラインで便利な点もあるが、リアルの良さが失われた。
- ・ オンラインにはデメリットがあるが、オンラインなりのメリットもあり、一長一短だから。
- ・ オンラインは参加できているかが疑問
- ・ オンライン対応と対面の両方に対応することになり仕事は増えた。
- ・ スライド作成の手間が増えた
- ・ できるだけ対面を大事にしています。
- ・ メリット、デメリットを合わせると、オンラインでの教育環境がなかった時と同レベルではないかと推察します
- ・ メリットとデメリットあり、トータルでは変わらないと思います。
- ・ 移動の負担は減ったが、対面でわかる空気感はわかりにくくなった。
- ・ 移動時間が減ったくらいで大勢に変化ない
- ・ 医療は機械ではなくヒトに対して行うものであり、医療教育は基本的に Face to face で行うべきものであるため。
- ・ 可能な限り対面での教育が必要である。
- ・ 教育活動には影響しない
- ・ 教育内容自体は変わらない
- ・ 業務量は変わらない
- ・ 元々、学会があり得る週後半には教育業務は入れていないので。
- ・ 講義作成にかかる仕事量に変化なし
- ・ 参加は容易になったが、対面に比べ、相手の反応がみえない、受け手側もインパクトが低く行動変容に結び付かないのではな  
いか
- ・ 実際のところ、「わからない」です。
- ・ 実習の代替えは困難。ただし、良いコンテンツがあれば教育に役立つ部分はある。
- ・ 十分対応可能でしたので。
- ・ 全てにおいて対面、on-line それぞれにメリット・デメリットがあるので、どちらが良い・悪いとは比較できない。
- ・ 特に変わらないように思うがカウンセリングなどの演習はわかりにくい
- ・ 内容は変わらないから
- ・ 「変わらない」を選択しましたが、学生さんの理解度に差が広がったと感じています。真面目な学生さんはより効率よく勉強し、  
そうでない学生さんは丸暗記と勉強時間短縮で理解度が下がっていると感じています。
- ・ 変化はあったが、どちらともいえない。良い面と悪い面がある。
- ・ 良い点: 現地に出張しなくても参加できる、悪い点: 一方通行になりがち
- ・ 良い点と悪い点とが混在する
- ・ 良い点もたくさんあるが、discussion は基本面前で行いたいところもある
- ・ 良い面も悪い面もあり、現時点では判断できない。

##### \*\*悪くなった

- ・ Zoom 講義では、インターネット動画を見ているような状態になった。
- ・ オンデマンド放送の講義だと、録画にとでも手間がかかり疲れる。特に、疲れの原因は、視聴者が見えないため、どこに視聴者  
が反応したか全くわからず、話が展開しにくい。
- ・ オンラインだと集中しにくい
- ・ オンラインだと臨床の仕事を減らすことができないため、集中できない、または夜に参加が必要
- ・ オンラインで、ノンバーバルコミュニケーションが取れなくなった。
- ・ オンラインでは聴衆の反応が掴めないの一方通行になりがち。対面による学会発表では緊張感が増すので、とくに若い医師  
には勉強になる。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ オンラインでは伝わらないものが沢山ある
- ・ オンラインになり時間に関係なく会議が増えたため、準備のための時間が減少した。
- ・ オンライン講義では学生の反応がつかめず、理解できているのか分かりにくいから。
- ・ オンライン授業では恐らく講義の効果が下がっている。
- ・ レスポンスが分からない
- ・ 医学は別としても、医療にはコミュニケーション能力が不可欠であり、本来、対面で獲得されるべきものを失っていると思われるため。
- ・ 医療にオンラインはそぐわない。
- ・ 画一的な講義をする分には利便性が良いが、双方向性の議論ができない。実体験をさせられない。
- ・ 会議をすればいいという風潮になった トップダウンという悪い風潮がみてとれる
- ・ 会話がな
- ・ 学生がまともに授業を受けない。
- ・ 学生の生の声を聞く機会が減った。
- ・ 学生の反応がわからない
- ・ 学生の反応が激減したから
- ・ 学生の反応が分かりにくい。臨床実習、実地研修の減少。
- ・ 気軽に会議を開催できるので、会議数が増えた。
- ・ 教育には対面も必要
- ・ 勤務を優先するため、オンラインの講義等を失念することがある。やはり現場に行って参加する必要がある。
- ・ 緊張感がなくなった
- ・ 形式的となるため
- ・ 講義は対面ですべき
- ・ 参加者の理解度を確認しながら進行していくことが難しくなった。
- ・ 質問しづらい
- ・ 実際に対面で接する機会が減少したためコミュニケーションの質の低下や参加者の反応が見えにくい。
- ・ 情報収集しづらい、コミュニケーションがとりづらい
- ・ 診療を優先せざるを得なくなり、職場にいるのに診療を差し置いてオンラインで参加しにくい
- ・ 生の討論が少なくなった。
- ・ 相手の理解具合が判らない。
- ・ 総合的に判断すると対面の方が良い
- ・ 対面でしか伝わらないことが多い
- ・ 対面でないと講義に対する学生の反応が見えない
- ・ 対面でのメリットがなくなった
- ・ 対面に復帰すると、学習者の理解度が測定しやすいから。
- ・ 対面の講義でないので反応がよくわからない
- ・ 対面参加の場合と比較してモチベーションが低下するように思う
- ・ 伝える必要な事項が、十分に伝わらない。
- ・ 肌で感じる緊張感がなくなった。
- ・ 表情の機微が、お互いの意思疎通には重要な要素と考えるため。
- ・ 頻回に開催、参加しやすい分、欠席しにくく、夜間の参加機会が増えた。
- ・ 負担が増えただけでした
- ・ 本気で勉強するなら対面の会への参加が必要
- ・ 良い面もあるが、やはり相手の反応を理解しにくい。
- ・ 臨床実習に関して、従来であれば診療と並行しておこなっていたものが、教育のみの時間を割かなくなった。教育専従の時間創出や人材配置をおこなうことで、診療業務に穴があく。
- ・ 論議できない

#### 教授(主任以外)・女性

##### \*\*よくなった

- ・ オンデマンドでの参加が可能となることで授業がやりやすくなった
- ・ オンライン講義、オンデマンド講義で準備時間が減り、効率化された。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 移動に費やす時間、労力が減ったことで参加回数が増えた。
- ・ 移動時間が少なくなった
- ・ 移動時間が節約できる
- ・ 遠隔地への移動がなくなり、その時間を他のことに利用できるようになった。
- ・ 学生の学習効率が上がっている
- ・ 効率的になった。が、学生は対面を非効率的と捉えるようになったのは問題。
- ・ 効率的に時間が使用できる。
- ・ 講義資料をオンライン用に作り替える必要があったが、出展などを明記することにより学生たちが自分で調べてくれるようになった
- ・ 在宅など場所に縛られず、講義や会議への準備や参加が可能となったため、家族との時間を調整しやすくなった。
- ・ 資料の視聴が明瞭になったことと、手でパソコン入力ができ、集中力を高めることができる
- ・ 時間外が増えたが、全体的には良い傾向である。
- ・ 地方なので移動の時間が減った

##### \*\*変わらない

- ・ オンラインになり、教育形態の多様化が進みました。
- ・ 教育は対面の方がわかる。オンラインで多くの人が参加できるようになった。
- ・ 個人によるため

##### \*\*悪くなった

- ・ オンラインの講義は準備に時間がかかり、人手もかかる
- ・ コロナ感染流行により、現時点では本来対面で行うべき授業や学会参加がやむを得ずオンラインになっている状況だと思う。オンライン化も活用は、教育のレベルを低下させず、教育の負担を軽減するには一定の効果があるはず。
- ・ その場の質疑応答が限られ、視聴者の理解の程度がわからない。
- ・ 交流が減り情報の共有が減ってしまった。
- ・ 出席を取るなどの手間が以前よりふえている。
- ・ 生のディスカッションを聴けないため、モチベーションが上がらない

##### 准教授・男性

##### \*\*よくなった

- ・ e-learning の導入
- ・ WEB 講演会
- ・ Web 授業の方が授業内容がダイレクトに伝わりやすい。
- ・ Zoom で自宅から、職場からの出席が可能になった
- ・ オンデマンドの講義で、移動時間が減った。また、学生を分らないところは、繰り返し見られるので、理解が深まった。
- ・ オンデマンドで授業がきける学生はうれしいと思います。
- ・ オンラインでの参加であれば家からでも当直中からでも可能であるし、オンデマンドであれば後からでも見ることができる。
- ・ オンライン授業の常態化
- ・ これまで参加が困難であった会にも参加することが可能となった
- ・ どこからでも授業ができるため
- ・ ビデオ講義などで繰り返しの手間が省ける
- ・ もともと不要な会議が多すぎる。ペーパーレス、移動省略は非常に効率的。
- ・ 意味不明な会議がオンラインになって時間が取れるようになった
- ・ 移動などの時間が節約できる
- ・ 移動にかかる時間が激減した
- ・ 移動のための無駄な時間が減った。また、遠方で参加が難しい学会にも参加しやすくなった。オンラインの方が、スライドが見やすい。また、オンデマンド開催の講演を空き時間に聴講できるのがよい。
- ・ 移動時間が減り、他の業務に充てられる時間が増えた
- ・ 移動時間が節約できて、効率的。いままで参加できなかったものまで参加できる。
- ・ 移動時間の無駄が解消された。
- ・ 移動時間をかけることなく有意義な情報を得ることができるようになった

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 一長一短
- ・ 演題を出せない医師、病院を離れられない医師も動画で学ぶことができた。
- ・ 遠隔地で開催される学会にも参加可能になったことは良かったが、実際に会って話さないとだめな場合もあります。
- ・ 遠方の学会等に気軽に参加できるようになった。
- ・ 遠方まで出張しなければならないような学会・研究会に気軽に参加できる
- ・ 会議、研修参加の負担が減った。参加しやすくなった。
- ・ 会議そのもの、スライドや資料に集中出来る。
- ・ 会議や講義に対する拘束時間(移動時間含む)が減った印象あり
- ・ 会場に行かなくても学会や講演会に参加できるようになった。
- ・ 外勤先や出張先から参加可能
- ・ 学会に現地参加する機会が減って、教育業務のスケジュールを調整する必要が減ったから。
- ・ 学会への参加機会が増え、新規知識が入りやすくなった。オンライン講義は反応が見えず、やりにくさがある。オンデマンド講義、自分の時間の融通が付きやすくなったが、教育効果には疑問がある。
- ・ 学会を広範に聴けるようになった
- ・ 学会会場への移動時間を教育の準備に充てられる。
- ・ 学会参加という意味では変わらないが、講義の合間に指導というはあるかもしれません。
- ・ 学生にとっては早送りで視聴できるため効率が良くなったし出席しやすい環境になった。学会等では移動時間や産休・育休や家事等で出張が難しくても移動時間の削減や任意の時間に視聴できるため参加しやすい機会となった。
- ・ 学生の成績がUPしている
- ・ 学生の利便性が高まったと思う
- ・ 簡便になった
- ・ 気軽に参加できる状況が増えたと思われるため。
- ・ 距離的に遠い専攻医に対しても Web カンファレンスを実施できる。
- ・ 教える側・学ぶ側双方にメリットがあります
- ・ 教育に使える時間が増えた。
- ・ 教育のあり方、考え方を見直す機会となり、教育内容が改善されつつある。
- ・ 教育の場合、オンラインの方が意見交換が活発になる傾向があるため。
- ・ 業務上出張できない場合、オンラインで参加できることにより多少の時間的融通が利く。
- ・ 繰り返し見ることができるようになった。
- ・ 現場に張り付いていなければならない臨床医にも、学会参加のチャンスが増えた。
- ・ 現地に行かないことで、海外での会議は時間がとりやすい
- ・ 現地に行く時間が省ける分、講義資料などの準備に必要な時間が確保しやすくなった。
- ・ 現地に行けない状況でも web で参加が可能
- ・ 現地に出向しなくて済む分の時間が使える。
- ・ 現地まで行く時間の無駄が解消
- ・ 現地参加による時間の浪費が防げる
- ・ 効率化された
- ・ 講義がオンラインになったため時間が拘束されなくなった
- ・ 講義にさく時間が、減った
- ・ 撮影した動画を教育に複数回使えるようになったため。
- ・ 参加しやすくなった。
- ・ 参加のための移動時間が、研究・教育・診療に回せるため効率が良い。
- ・ 参加機会が増える
- ・ 時間(特に移動時間)の有効活用が可能となった。
- ・ 時間が有効に使えるようになった
- ・ 時間と場所を選べるようになった。
- ・ 時間の節約・有効利用が可能となった。
- ・ 自分で使うことのできる時間が増えるため
- ・ 実は一方向の授業が多く、対面で行う必要がない授業も多いことがわかった。
- ・ 授業・実習を PC 端末経由で発信することで、学生の「自主性」が向上した部分があるため
- ・ 集まる場所の範囲が緩和されたことで、選択できる時間帯の幅が広がった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 出席できない学生が講義を拝聴できる
- ・ 出張する時間が削減できるから
- ・ 出張で大学に不在となる時間が減った
- ・ 出張による不在が減り、業務対応がしやすくなった。
- ・ 準備が比較的楽になったと思います。
- ・ 設備整っていれば全く問題ない
- ・ 双方向でのやりとりがしやすくなった。
- ・ 知識の取得には有利だと思う。
- ・ 地方で参加できる
- ・ 東京日帰り出張がなくなって、勤務に余裕ができた。
- ・ 特に学会で単位取得のため、現地で講義を聞くという時間が節約できたのが大きい
- ・ 必ずしも現地参加の必要がないことが実証された。
- ・ 様々な情報を入手しやすくなった。

#### \*\*変わらない

- ・ 「教育」に重要なのは、教育される者の「姿勢」によると考える為
- ・ アクセスはしやすくなったが、教育効果は対面のメリットもあるので、現時点ではよし悪しの判断はつけられないと思います。
- ・ あまり変化を感じない
- ・ オンザジョブトレーニングが主であるため
- ・ オンデマンドで、何度も学習できるメリットと、対面でないと集中できないデメリットがある。
- ・ オンラインではほぼ十分
- ・ オンラインで場所を選ばずに講義や学会参加できること、またオンデマンド配信で繰り返し学習する機会が出来たことはよいが、顔が見えにくいために学生たちや学会参加されている医療者の反応が分かりにくく、理解度を図ることが困難になった。また集中力の維持が難しく、オンラインでの時間的な配慮をする必要性が生じている。
- ・ オンラインで良い場合と直接参加いたほうが良い場合がある。
- ・ オンラインに向けた準備をする時間が増えたため
- ・ オンラインも良い面と悪い面があり相殺される
- ・ オンライン形式で時間が節約できる反面、学生に伝わりにくいこともあり変わらないとしました。
- ・ オンライン用のコンテンツを手間をかけて作ったが、結局対面で講義をする方向に戻っている
- ・ メリット、デメリットで、プラスマイナス0
- ・ メリットとデメリットがあるため
- ・ モチベーションが高い学生や研修にとっては大きな問題ではない
- ・ リモート講義・実習の要領をつかめてきた、設備が整ってきたから
- ・ 以前から講義形式で行なっているものがほとんどであったため
- ・ 以前より準備に時間を要する
- ・ 一長一短であるため
- ・ 影響ない
- ・ 会場往復の手間が減ったが、準備が必要であることには変わらない為
- ・ 学会参加は自由意志であり、強制できない。
- ・ 学会参加登録はできて、現地に行かない限り実際には職場で診療せざるをえないため、学会参加できないことが多い。
- ・ 関連がない
- ・ 技術的な面の継承が困難
- ・ 旧態依然の一方的な教育方略を見直し、教育の質を高める契機になった。一方で、オンライン教材の作成やオンライン学習・研修の場の整備で教育業務は明らかに増えた(「働き方改革」の名目の下、自宅での連日の夜遅くまでの「業務」を続けることになる)。「変わらない」というよりも「どちらとも言えない」
- ・ 教える内容が変わってないから
- ・ 教育に割く時間は変わらない
- ・ 教育に関する準備は変わらない。また、オンライン講義特有の資料作成が必要である
- ・ 教育の時間数に変化がないから
- ・ 教育を受ける機会は増えたが、教育を提供する環境には変化がないため
- ・ 教育業務と学会参加の関連性が不明のため

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・元々教育に咲く時間が少ないため
- ・元々教育業務と学会参加等にかかる時間は競合していなかったため。
- ・現在はオンラインからオンサイトに戻りつつある
- ・講義室はそれほど遠くないので。
- ・時間はできたが質は低下している
- ・時間的には、あまり変わらないと思うので。
- ・若手の医師がオンラインでも参加はしていない様に思う
- ・準備に時間がかかる。
- ・準備時間は変わらないため
- ・前年と同じ講義動画を配信できるので手間を減らせるが、講義内容の更新改良を怠る事になる。
- ・全てがオンライン化されたのであれば変化はあるが、ハイブリッド、現在はオンサイトに戻る状況なので、元々の状態に戻った感がある。
- ・対面からオンラインに変わったただけだから。
- ・対面授業が減りオンラインが増えたが、講師側の負担は変わらない。
- ・必要とされる時間は変わらない。
- ・必要なものは必要で変わらない
- ・良い点と悪い点が双方存在します。良い点は出向せずに済むため、時間が有意義に使える。悪い点は講義等のオンライン化により対面講義の利点は失われた。
- ・良い面と悪い面があるため、変わらないと回答した。オンラインで対面での大事なことが伝えられなくなったことは、非常にマイナスである。
- ・良くなった点と悪くなった点があり、一概に言えない。良くなった点は出張しなくても学会参加できる、オンデマンド配信などで自由な時間に学会参加できる、など。悪くなった点は、臨床実習で体験させられることが大幅に減少する、など。

#### \*\*悪くなった

- ・もともと診療業務の合間に何とか準備していた講義の準備にさらに時間がかかるようになった。オンラインでの通信障害への対応を、教員個人で対応する場面があり、負担が増えた。オンラインで受講できない学生向けに、別途対応が必要になるケースがあり、兎に角 いろいろ仕事が増えすぎ。
- ・オンラインだけでは十分なコミュニケーションがとれない
- ・オンラインだと講義を聞かずただ流しているだけの可能性がある
- ・オンラインだと真面目に聴講する受講者が減る
- ・オンラインだと能動的な教育が難しいため
- ・オンラインでの学会参加中に電話がかかって来るため集中できない
- ・オンラインでは外科の手技的な楽しみは伝わらない
- ・オンラインでは学生の反応がわからないため。
- ・オンラインでは教育効率が低下している
- ・オンラインで中途半端な参加で、プログラム以外交流がなくなり情報が入手しにくくなった。
- ・オンラインとオンサイトの療法を準備するのが面倒
- ・オンラインとなり出席・欠席を正確に把握することが困難となったため
- ・オンラインと目の前で言う講義はまったく授業の雰囲気熱量が違う
- ・オンラインはあくまで一方向性だから
- ・オンラインは参加するのは容易だが著作権問題が多くあり、大学の講義以外ではスライドの作成により慎重な対応や工夫が必要となり大幅に労力が増えている。
- ・オンライン講義となり時間の制約がなくなった一方、対面でないと学生との交流が難しい、オンライン講義もしっかり聞いているかわからなくなった。
- ・オンライン講義は聞かれていないと感じる
- ・オンライン講義や動画配信では学生の反応や理解度が全くわからない
- ・オンライン相手の態度が不分明だから
- ・オンライン脳が増えるから
- ・オンライン用の動画作成の準備など、これまで以上に資料や教材作成に時間を費やす必要があった。
- ・その場での反応が確認しにくい
- ・やはり、医療は実際の現場、対面での指導が必要だと思います。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・リモートに関する作業増加
- ・医学教育は知識だけでなく思いも伝えることが重要なため、対面の方がよい。不在の時に、休講にするよりは動画でも授業が行えるのは良い。
- ・一方通行になった。
- ・学会参加に関しては、専門医更新単位取得にお金がかかるようになった。
- ・学生・研修医が学生に直接触れる機会が減少したため。
- ・学生からは、対面のほうがよいという意見がある。
- ・学生が病棟実習に来なくなった
- ・学生などはオンラインでの授業が当たり前となり、他に何かをしながら授業へ参加したり、そもそもオンライン上は参加しているが、実際はPCの電源はついていないが、PCの前にすらいない状況がある。授業への集中が減っていると感じる。
- ・学生の試験の結果が悪くなったり、学会発表の質疑応答の質が低下したりしているから
- ・学生の反応がわからない。質問が来ない。部下の発表に対する質問に助け舟が出にくい。
- ・学生の反応が分からない
- ・教育はやはり顔と顔をつきあわせて、直接対話することで得るものも多い。オンラインだけでは単に知識のみの伝授であったり、マニュアル的なことしか覚えていない学生も増えている。
- ・教育業務としては新規に構築することが多く、手間が多かった。また、実習などでの教育内容の質が低下してしまう。
- ・教育特に講義はオンラインでは学生側も十分な理解を得にくい
- ・教員の労力が増え、教育効果が上がらなくなった。教育効果の調査という別の仕事も増えた。
- ・業務が増えたように思います
- ・講義に関しては、学生のレスポンスが分からず、教育者としては著しくモチベーションが落ちる。
- ・講義の録音などが、大変手間。
- ・講義は、やはり対面が望ましい
- ・講義を行う際には、ただ知識や情報を話しているだけではない。学生の顔色を見ながら理解できていなさそうなどときには少し丁寧に説明するなど、現場で調整しながら講義をするものだが、それが不可能だったから。
- ・講義内容やファイルのボリューム制限などから、内容を制限することが増えたため
- ・在宅で仕事することが多くなり、境界がより不明瞭となった
- ・資料作成に要する時間が増加した
- ・自分がオンラインで参加していると思うことは、やはり緊張感や集中力が対面と比較して、明らかに低いです。
- ・自分の発表するセッション以外を聴講しないことが増えた
- ・質問の機会が減少した。
- ・実習などはやはり対面が良い
- ・若手のプレゼン能力が育たない
- ・受動型の教育に慣れてしまった学生に、オンライン講義をしても真面目に聞かない。
- ・集中力が減った
- ・情報収集がやりにくくなった
- ・神経内科は「百聞は一見に如かず」という場面が多く、オンラインでの実習代替は無理がある。
- ・生で応答が教育効果は高い
- ・対面でないと得られないものがあるのは明らか。
- ・対面でのメリットを得ることができない
- ・対面にしか得られない学習機会の減少
- ・対面に比べて効率悪い
- ・対面の機会が減ったため、相手とのコミュニケーションがとりづらくなる。
- ・対面教育の利点が失われる
- ・直接会えないため
- ・適時質問などに答えることができていない
- ・伝わりにくい
- ・動画内容以上のことが学生に伝わらない
- ・倍速視聴等のお手軽学修が増えたように思う
- ・反応が見にくい
- ・費やす時間が減った。
- ・忙しすぎる こなせない

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・理解しているか問題
- ・臨場感が伝わらない。対面でのやり取りと比較して質、スピード感に劣る。
- ・話す側のやる気と聞く側のやる気の両方が悪くなってしまっている。
- ・話を聞くに際して、対面に勝るものはないから。

##### 准教授・女性

###### \*\*よくなった

- ・e-learningにて繰り返しまなべる。資料が充実。
- ・オンラインでこまめに連絡を取り合えるようになった。
- ・オンラインでは学会に参加しやすくなった
- ・オンラインという選択肢が増えた。
- ・ビデオ撮影時間を融通してもらえた
- ・異動時間の短縮ができた。
- ・移動時間がかからないこと、男性の医師も自宅で子供さんの面倒を見ながら会議に参加できるようになったことは、誰にとっても(環境保護的にも)メリットがある。
- ・移動時間がなく、地方の学会には子供がいるといけませんオンラインで発表したり勉強会に参加できるようになりました。
- ・移動時間が減った。非常に便利になった。
- ・移動時間が不要になった。
- ・移動時間を考慮せず、また後日自分の都合の良い時にオンデマンドで視聴できるのは利便性が高い。
- ・移動時間を問わず、専門医の更新が可能になった。子育て世代にはありがたい。
- ・遠くの学会にも参加できる
- ・遠隔地の先生の講義を聞く機会が増えた
- ・会議のための移動時間がなくなった
- ・会場に行く手間が省ける
- ・学会会場まで行けないときでも勉強できる
- ・学会参加などが容易
- ・学生が授業へ参加する際、オンラインか対面かを選べるようになった。
- ・教育の機会の減少に対して、ある程度よい効果があった
- ・効率化
- ・講習会など参加しやすくなった
- ・参加者が増加したため
- ・時間が自由に使えるため
- ・自身の都合に合わせて勉強できるようになったから

###### \*\*変わらない

- ・アクセスはしやすいが、集中のレベルは下がっている
- ・オンラインから対面に戻っている
- ・オンラインでの講義の意味がわからない。講義は、自分自身が行う教育業務のことではないのか？何を仮説に(期待して)設定された質問なのか意図が読みにくい。オンライン、ハイブリッドで教育を行わないといけないので、その分負荷が増えて、学会にはいけない。
- ・移動などの時間は減ったが理解力については分かりにくくなったので今後の改善に活かしにくい。
- ・気軽に学会に参加できる利点もあるが、対面で講義などを行わないことによる弊害もあると思う。
- ・教育内容に影響はない
- ・効率になった側面もあるが、「良くなった」という感覚はない。
- ・私が実技教育教員のため。対面で基本行なっています。オンラインで補う箇所はあり、向上した面と、逆にコミュニケーションから生まれる気づきの機会は減少している気がしますので、悩ましいところです。
- ・準備することに変化はないので
- ・良い点と悪い点がある。国際学会などは自分に都合の良い時間に何度でも視聴できる。質問がしやすくなった。人格形成のために人と関わることは重要で、対面の講義を学生は喜んでいる。理解してもらえているか判断できない。

###### \*\*悪くなった

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ Web 講義に対する準備時間が増大している。学会参加は可能であるが、業務をしながらの参加となり、かえって十分に参加できず、中途半端な知識の習得にとどまる
- ・ オンライン授業は能動的参加に結びつかないため。
- ・ モチベーションによる格差が広がった。
- ・ 会議や学会参加は便利が良くなったが、講義については、(講義形式にも寄るが)事前準備が大変になった。
- ・ 学生の受講態度が明らかに悪化している
- ・ 患者様と接する機会が少なくなった
- ・ 技術伝承が難しくなった。
- ・ 自主性に任せられるので、勉強しない人はしない。
- ・ 手応えがありません。
- ・ 集中して参加できない
- ・ 相手の反応が分からないため、手応えが感じられない。
- ・ 対面のほうが反応がわかりやすい。
- ・ 反応が分からないので授業をしていても聞いているのかどうかも分からない。学会も登録はするものの、会場に行かないと結局発表を聞かずに終わることもある。

#### 准教授・回答しない

##### \*\*良くなった

- ・ 海外からの講師を安価でお願いできる
- ・ 若い医師が、オンデマンドの学びの場に参加するチャンスが増えたと思う、一方で対面での質疑応答が減ったので、「質問力」は育っていないように思う。

##### \*\*変わらない

- ・ 教育の主体は教育を受ける側の主体性であるため
- ・ 個人の意識の問題だから

#### 講師・男性

##### \*\*よくなった

- ・ 「移動」に時間をかけずに済む点、遠隔地では宿泊費を計上する必要がない点で効率的、経済的である。
- ・ あまりインターアクションのいらぬ知識の伝達はオンデマンドのビデオ講義が利用され、お互いに良かったのではないかと考えています。
- ・ イージーアクセス
- ・ いつでも参加できるようになった
- ・ オンデマンドの録画講義でも良くなり、その分を診療に回せたり自由度が広がった
- ・ オンラインが有用な面と、対面が有用な面を分けて考える必要があるが、選択肢が増えたことは良い。
- ・ オンラインツール利用により、対面のみ的手段が、オンライン、ハイブリッドも追加出来ることになった、各種教育用ツールの登場も有効であった
- ・ オンラインでの参加や学習の機会が増えたことが、教育へのフィードバックを増加させたため。
- ・ オンラインで気軽に参加できるようになった
- ・ オンラインなら参加できるものが増えた
- ・ オンラインにより遠隔地への旅行をすることなく参加でき、時間を有効に使えるようになった。
- ・ オンラインにより学会参加がしやすくなった。
- ・ 聴きたい講演をきける
- ・ これまで数時間の説明会のために時間をかけて何度も出張をしていたのが、オンラインで済むことが多くなり、時間と手間が削減できた。
- ・ どこからでもオンラインでの教育・授業が可能になった。
- ・ どこでも参加が可能となり、家事・育児共に行うことが可能となった。学会参加に遠方に行かずとも参加可能となり、学会活動は行いやすくなった。
- ・ ミーティングなどがしやすくなった。
- ・ メモを取ることが容易になりました
- ・ リモートによる業務円滑化

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・わざわざ現地に行かずに済むようになり、自分の時間が増えた。
- ・わざわざ都会に出向かなくて良くなり移動時間がかからなくなった
- ・移動にかかる時間の節約
- ・移動による肉体的なストレスや時間の消費が軽減された。自分のオフィスで業務が完結する。場合によっては自宅でも対応できる。無駄な時間がなくなったことで、必要な業務に割ける時間が増えた。
- ・移動に要する時間が節約できる
- ・移動の準備をしなくてもよくなった。無駄な意見交換という時間に参加しなくてよくなったのは生活時間が拡張されていいことだと思う。
- ・移動時間がないため、学会に参加しやすくなった。
- ・移動時間が減ったことでより時間が有意義に使える。
- ・移動時間が減り、準備に費やす時間が増えた
- ・移動時間なく参加できるのはありがたい。一方、直接討議できなくて情報交換の質や理解の度合いは下がっている。
- ・移動時間を教育業務に充てられる
- ・遠出しなくても講演を聞けるようになった。
- ・遠方に出向かずに学会参加できるようになった
- ・会議が行いやすくなった
- ・会議や学会参加に現地に行かないので、それはかなり時間短縮になり助かっています。教育についてもオンラインで参加しやすくなりよくなったと思います。
- ・会場への交通時間などの削減
- ・学びの機会が増えた
- ・学会がオンライン化されたことにより現場から離れる時間が少なくなったため
- ・学会で移動に費やす時間が節約できるようになった、前泊などがなくなった。
- ・学会に参加できる機会が増えたから
- ・学会に足を運ぶ時間が無駄であり、その無駄が省かれたのだから、改善している。
- ・学会参加しやすくなった。
- ・学会参加への障壁が減少した。
- ・学生が自宅にいても、講義を受けることができるようになった。
- ・学生とのコンタクト手段として有用
- ・学生にも様々な会への参加を促しやすくなった(移動に経費が掛からないため)
- ・学生の試験の成績が向上した。
- ・教育に関する最新の情報を取得する機会が増えた
- ・教育はオンラインで事足りる場合が多いため。
- ・現地にいかなくてもよくなった 無駄な旅行が減ったから
- ・現地に行かなくても、学会に参加できるのは、ありがたいです。
- ・現地に行かなくてもよいため、参加できる会が増えた。
- ・現地に行かなくてよいので余裕ができた
- ・現地に行けない学会、講義を聞く機会が増えた。
- ・現地参加が不要になり、移動の時間を教育業務に振り替えることができる
- ・効率が良くなった。
- ・行かなくても受けられる
- ・講義のオンデマンド化により学生の学習効率が上昇したため
- ・講義を動画にしたところ自由な時間に視聴できると学生に好評だった。
- ・参加する機会が増えた。
- ・時間に縛られることが減った
- ・時間の節約になり負担が軽減される。移動時間等。
- ・時間や場所を選ばずに学べるようになったため
- ・時間をかけて現地にいかなくてもよく、情報を収集しやすくなった
- ・時間的空間的制限が減った。
- ・自分が参加する分には非常に効率的になった。かつ自宅で過ごせる時間が増えた。
- ・集まる必要のない会議はオンラインで充分。非常に効率がよくなった。学会も集まる意義もあるが勉強するだけであればオンラインの方がむしろ参加しやすい。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・出張せずとも、講演を聴講できる機会は増えた。
- ・場所を選ばずに参加可能となった
- ・診療後に参加できる会が増えた
- ・積極的に参加できるようになった。
- ・選択肢が増えたため
- ・地方からでも参加しやすい
- ・東京などへの旅費・時間が掛からなくなった
- ・入手できる情報が増えた
- ・不必要に集合することが減った。講義はオンデマンドで十分だと思う
- ・無駄な対面学習が減った
- ・様々な会議や講演を聴講することができたから。
- ・良い面と悪い面がある。学生の反応がわからないのは悪い点
- ・録画授業で空いた時間でできるため

#### \*\*変わらない

- ・Webで教育をすることがほぼない。
- ・オン・ザ・ジョブ・トレーニングの必要があり、対面式でないと伝えられないことが多い
- ・オンラインでも、時間拘束はほぼ一緒
- ・オンラインで学会参加の機会は増えたが、他の業務をしながら参加できるようになり、学会になかなか集中できず身にならないように思う。今後はなるべく直接参加しようと思っている。
- ・オンラインを取り込む工夫は必要
- ・コミュニケーションが減った。
- ・コロナ禍より大学勤務となったため
- ・まだ十分にブラッシュアップされていない
- ・まともな講義をしている場合では、大きな変化はないはず。
- ・やりにくくなった部分と、効率が良くなった部分が両方ある
- ・よくなったこと 移動がないこと 悪くなったこと 面と向かって感じがなくリアルに感じない
- ・より多くの人が参加しやすくなったが、淡白な発表となりがちで十分にディスカッションができない。良い面と悪い面がある。
- ・意欲のある学生は学習機会が増えるが、オンラインでのやり取りでは議論、ブラッシュアップの質が上がりにくい
- ・意欲のある者は形態は問わず、変わらないと考える。
- ・一長一短あり
- ・一方通行型の講義では以前と変わらない
- ・遠隔の会議に参加がしやすくなり、移動時間を要さないのはメリットとしてある。一方、過度に会議が多くなり、より時間が拘束されるようになった。直接の会話ができず、会議・学会は情報が受け身になることが多くなった。
- ・学びたい人は、どんな形態でもやるし、そうでない人はやらない。
- ・機会は増えたが、学生の反応は画面越しにわからない
- ・教育には、あまり関連は無さそう。
- ・教育は外来中に行っているので変わらない。
- ・教育への影響はない
- ・教育業務には変化はありません。
- ・業務としては変わらないが、現場に物理的には出向かなくてよくなり、利便性が向上した。
- ・業務としては変わらないが、良い教育になっているかはわからない。
- ・業務量が減っていない
- ・結局自分のエフォートをどこにどれぐらい振り分けるかだけなので。
- ・結局対面に拘る老害管理者が変わらないから。
- ・結局勉強するのは個人の問題であるから。
- ・講義のオンライン化は進んでいない
- ・作業時間は確保しやすくなったが、オンライン用資料作成が大変
- ・参加しやすくなったが、取捨選択が難しくなった。
- ・参加そのものはしやすくなった
- ・参加の積極性は減ると思われるため。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・仕方なくやっている部分なので
- ・出張は減っても回数は変わらず拘束される時間もあまり変わらない
- ・準備が長く時間を必要とするため。
- ・多くの授業はオンラインで可能であることが分かったため。
- ・対面の良さがオンラインを上回るかは不明。
- ・地方の人員不足の面で変わらないので、変わった印象はありません。
- ・当初はオンライン授業に慣れるのに時間がかかった。今は対面授業となっており、以前と変わらない。
- ・得たものも、失ったものもあるため。どちらが大きいかを判断できません。
- ・不真面目な学生は授業中寝てるので。
- ・変わった実感がないため
- ・便利になったが、リアル学会や授業でないと得られないものはあるように思う。
- ・要は本人の意識の問題だから
- ・良い点も悪い点もあり、一概に言えない。
- ・良い面と悪い面がある。

良い面: 自施設にいない専攻医であっても、オンライン講義で知識の底上げができる。

悪い面: 研究会、学会に参加するために時間を割くために努力をする必要があった。

わざわざ時間を割いたのだから、勉強しようという姿勢も見られた。しかし、オンラインになって、若手医師の研究会学会への参加意欲は減少している印象がある。

#### \*\*悪くなった

- ・Face to face でなければ何ともならない点が多い
- ・Face to face のメリットが失われた。
- ・WEBにより教育機会が増える一方で臨床的な教育が困難になった
- ・ZOOMなどでの講義では学生のレスポンスがわからないことがデメリットに感じる。
- ・オンサイトでの発表の機会が減った
- ・オンラインだと臨場感や集中力の低下で理解力が低下している印象がある
- ・オンラインでの講義では質が下がる
- ・オンラインでは質疑が活性化しない
- ・オンラインでは質問の機会に限られること、聴衆の表情が見えづらい中での発表では、十分なディスカッションができないこと、創造性に関しては対面の会議の方が良いことはすでに報告されていること。積極的な学生とそうでない学生での格差が開いた。
- ・オンラインでは対面に比べて双方向的な教育が困難なため。
- ・オンラインでは聞いていないが増える。質問が減る。
- ・オンラインの講演は参加していても真剣に聴講しないことが多い
- ・オンラインは自己責任での努力を必要とする。
- ・オンライン講義がふえることで、患者や医師同士とのコミュニケーションができない、患者を診察できず、仕事を一生懸命せずに楽な仕事を選ぶ若い医師が増えた。学会や会議については移動時間が無くなりメリットは多い。
- ・オンライン講義だと反応もわかりづらく、難しい。
- ・オンライン講義の内容が学生に届いているのか、はなはだ疑問
- ・オンライン講義を有効利用しきれていない。受講者側の不満を懸念。新たな教育資料の作成労力、負担の増加。
- ・オンライン授業の収録に労力がかかる。
- ・オンライン用の教材づくりに時間がかかる
- ・コミュニケーションが減少したから
- ・コミュニケーションが充分にとれない。
- ・じかに会えない教育はやや無味乾燥なものを感じる
- ・ハイブリッド授業になって明らかに学生の出席数が減った
- ・ポリクリが出来なかったのは残念。講義は対面でインタラクティブにやりたい。
- ・もちろん良い点と悪い点がある。開催、参加は楽であるが、受ける側も講義をする側も姿勢が大切。大人数で開催するとほとんど無意味となる。
- ・一部の学生がモチベーションが下がって授業についていけない場合がある。
- ・会議が増えて燃え尽きになった
- ・学会ではその場で議論することが最も重要であるにもかかわらず、一方的な発表で終わってしまうことが多くなるから。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・学会という限られた時間に集中して参加していたものが、ウェブになり参加しやすくなった側面もあるが、勤務を休まなくても参加できるようになり、中途半端な参加に終わることが増えた。
- ・学会に参加する頻度が減ったため
- ・学会の現地参加ができなかったため、他県の医師からの情報が入りにくくなった。
- ・学生、若手医師とも受身的で、コミュニケーション能力の低下が目立ちます
- ・学生がさぼりやすくなったから
- ・学生が繰り返し見られることができるが、その分授業に対する真剣度がさがっていることを感じている。また、相手が見えないことで到達度が実感しにくい。
- ・学生が結果的に学習できているかはわからない
- ・学生との直接のコミュニケーションが取りにくい。
- ・学生の反応が見えないため、モチベーションが下がる
- ・顔をあわせてのコミュニケーションは必要
- ・教材をオンライン用に余分に準備する必要がある
- ・興味のあるもの以外に目が向くことが減ったから。
- ・空いた時間にレクチャーすることが不可能となり、予定を立てる手間が増えた
- ・現場の反応が読み取りにくくなった。
- ・現地参加による交流の場が制限される弊害が多いと考える。
- ・限界があります。
- ・講義の際、学生の反応が確認できないため
- ・講義はオンデマンドが多いので、結局聞かなかつたり、深く理解せず終わっている。
- ・参加しやすいが、集中して受けられない
- ・資料の作成に時間がかかるようになった
- ・実習ができない時期があった
- ・実習時間が減った。
- ・授業は対面がよいと思っていますので
- ・授業をしても学生の雰囲気かわからないので達成感がない。
- ・準備時間がとても時間がかかる
- ・診療しながら学会に参加しなければならない。学会に没頭できる環境がなくなって迷惑している。
- ・人を目の前にして接することが重要なことは教育の基本。親が子供をオンラインで教育すると考えればわかる。
- ・対面でしかできない教育があるから
- ・対面での授業がやはり、質問するにしても理解が深まると思う
- ・対面での臨床実習が激減した学生がどのように感じているか気がかりです
- ・対面で議論する能力が鍛えられない
- ・対面授業ができないため、コミュニケーション不足を感じる
- ・長所としては、学生講義の時間を診療に当て、移動時間なく学会を聞くことができること、短所としては、学生実習が自習や講義になったことや学会にて新たな人間関係を構築することができないことがあげられる。長所、短所あり、人とのつながりが希薄点からデメリットの方が大きいと考える。
- ・直接やりとりできないことで教育の質は下がらざるを得ないと思います。
- ・直接指導ができない。患者と接する機会が減った。
- ・表に出せない資料がある
- ・本来ならば現地参加のために欠席が可能であったら会議などへの出席頻度が格段に増加したため。
- ・夜間の会議が増え、結果的に時間外労働が増えた
- ・有識者に直接教えを請うチャンスが減った
- ・臨床の現場での実地の実習の機会が減ったため
- ・臨床教育はオンラインでは代替不可
- ・臨床現場を見学させる機会が減った
- ・臨床実習の質が低下

#### 講師・女性

##### \*\*よくなった

- ・Web セミナーを視聴する機会が増えた。学会参加においては、現地開催のみのときには参加できなかったものでも、Web であ

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

れば1日だけでも参加しようと思えば短時間参加することもできた。

- ・ Web などのおかげで学会などには参加しやすい環境になった
- ・ オンラインで効率的に実施できる
- ・ オンラインで授業ができるので、学生にとっては資料など活用しやすくなったように思う
- ・ オンライン化によって、対面での会議・学会参加に必要であった移動時間が減った。
- ・ オンライン参加できる会議が増えて移動時間が節約できるようになった
- ・ オンライン参加により、出張等による人手不足が解消されやすくなった。
- ・ システムの問題ではないと思う。
- ・ 移動でくたびれ果てていたのが、自宅で家事をしながら参加ができるようになった。
- ・ 移動と費用を抑えることができる。
- ・ 移動の時間が減って、臨床業務に支障が出にくかった。
- ・ 移動時間がなくなり、家事育児と両立しやすくなった。
- ・ 移動時間が短縮された。学生が講義内容をオンデマンドで繰り返し確認できる。
- ・ 移動時間が無くなったこと。自分の都合で参加できること。
- ・ 育児中だと県外と連泊の学会参加は難しい
- ・ 育児中の女医にとってはオンライン参加は大変有用
- ・ 遠方に出かけなくても講演や教育セミナーの単位が取得できる
- ・ 遠方へ行くことなく、学会に参加できるため。
- ・ 家からでも参加できる講習会の増加
- ・ 会場への移動がなくなったため、楽になった。
- ・ 学会には気軽に参加できるようになり勉強になる。しかしオンラインでの教育の質については課題も多いと感じている。
- ・ 現地に行かなくても、また同時進行の演題も試聴できる。
- ・ 現地に行けない人もオンラインで参加できるようになり、学ぶ機会が増えた。
- ・ 現地へ赴くことなく、最新の知識やトピックスを得ることができるから。
- ・ 交通費や日程の関連で、講義や集会に呼びにくかった遠方の講師を招聘しやすくなった。
- ・ 講演会場への移動時間がなくなったことで時間のやりくりがしやすくなった。
- ・ 今まで遠距離で参加できなかった研究会などに参加できる
- ・ 今まで参加できなかったものへ参加できるようになったため。
- ・ 参加できる研究会が増えた
- ・ 子育てをしていると学びの機会を逸することが多かったですが、オンライン・オンデマンドで学びの機会が確保されるようになりました。今後も、学会のハイブリッドは継続していただきたいです。
- ・ 時間と場所のしびりが少なくなった。
- ・ 手軽に講義を聞くことができるようになった
- ・ 出張が減った。体調悪い時など自宅から会議に参加できるようになった。
- ・ 出張の移動にかかる時間がなくなったため学会に参加しやすい。
- ・ 選択肢が増えることは良い
- ・ 総合的には良い。講義という物理的拘束時間がないので、教員の負担が減る反面、スライドや動画作成など始めは大変つらい。学生は繰り返し勉強でき、質問も周囲を気にせずできることがメリットだが、周囲の状況が分かり辛く、学生格差はしやすい。
- ・ 地方での開催のものにも参加できるため
- ・ 都市部での学会等への移動時間なくなり、効率的に時間を使えるようになった。特に子供が小さい医師らにとっては家族団欒の時間を確保しやすくなったと思う。オンラインの会議を経験し、会議はオンラインを原則とするのがよいと感じている。
- ・ 物理的な移動、準備時間が減少し、時間の節約になった。
- ・ 北海道は地理的に不便なので現地に行かなくてよいのは時間や金銭的に非常に助かる
- ・ 無駄な時間が減った
- ・ 有意義な会合に参加できる機会が増えた
- ・ 養育を必要とするものがある場合研究会や学会へ行くのは難しかったが、オンラインで参加できる会議が増えた。

#### \*\*変わらない

- ・ eラーニングは参加しやすく、繰り返し聞ける利点もあるが、対面のほうが伝わりやすかったり、印象に残ることもあるから。
- ・ あまり教育に携わっていないから詳細不明
- ・ いつでもどこでも勉強できるのはよいが、時に相手の反応が分かりづらいという難点もあったので一長一短だと思う。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ オンライン、対面それぞれに良さがあります。
- ・ オンラインで参加しやすくなったが、現地で学ぶ機会が減少した。
- ・ オンライン参加はありがたいが、たくさん参加できるようになり、むしろ忙しい。対面でなければ効率が悪く、得る情報も減った気がする。
- ・ グループレクチャーは感染状況によって Zoom か対面で継続できたため
- ・ 学会参加のため移動しなくてもよくなったが、その分真面目に聴講していないと思う。
- ・ 簡便に参加できる良い面もあるが集中できない面もある(日常業務と同時並行のため)
- ・ 業務をしながらの参加になりあまりよいとはいえない。
- ・ 月に数時間捻出できただけでは教育業務に変化はない。
- ・ 講義は対面でなくなる分、聴講する学生の理解度や反応がわかりにくくなった。会議や学会の参加率は現地までの移動時間が減った分増えたが、その分通常業務も同時にできてしまうため同時並行は難しい。
- ・ 参加機会が増えたり、オンラインコンテンツへのアクセスが良くなった利点の反面、対面での講義・研究者との交流が減ったことのデメリットがある。
- ・ 負担が減った一方で一人一人の学生の様子がわかりにくくなった。
- ・ 勉強しない学生はしないままだし、する学生はするから。
- ・ 良くも悪くも。興味のあることだけに参加するようになった。

##### \*\*悪くなった

- ・ オンラインだと集中できないから
- ・ オンラインでの密なワークショップがやりにくい
- ・ オンラインのための準備に時間を要する
- ・ オンライン講義だと学生の様子が把握しづらく、学生も「流す」感じがある。
- ・ オンライン講義のためのスライドづくりや動画作成などが手間だった。また、オンライン講義では、熱意に乏しい学生の学習効果が、さらに低下したように感じる。
- ・ クリニカルクラークシップの質が落ちた。
- ・ ちゃんと聴講できているか、不確実
- ・ やる人とやらない人とでかなり差が出ている。
- ・ 以前より実習に制限が多くなった
- ・ 家からの参加だと家事育児との並行になり集中できない
- ・ 学会も聞きたいことだけになったし、会議も参加しないことが増えた
- ・ 学生が会議に参加する機会は減った、学生と交流する機会が減った
- ・ 学生が授業を受けない 学生の理解力低下
- ・ 学生の気質が変わった気がします。
- ・ 学生実習や病院内での体験型教育は、オンラインでの代替講義で継続しているとしても臨場体験の機会は大幅に減った。
- ・ 講義は問題ないが、実習が不十分。
- ・ 実際に学会参加するモチベーションがなくなった
- ・ 受講する側に余程の向上心がない限り、オンラインでは学習効果が低下すると思われる。
- ・ 人と話す力が弱くなった
- ・ 対面でないことで反応がわからない
- ・ 対面式の教育に較べて、コミュニケーションが悪くなったと思います。

##### 講師・回答しない

##### \*\*良くなった

- ・ 移動の無駄が減った。挨拶だけの出席が減った。
- ・ 現地まで行く時間の節約につながった

##### \*\*変わらない

- ・ 学会に参加しやすくなったが、オンラインでの教育では伝わらないこともあるので、メリットとデメリットが拮抗している感じ

##### 助教・男性

##### \*\*よくなった

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ web 講演の場合、好きな時間で研鑽することができ、わざわざ現地に行く時間を取らないでよい。学会が現地開催に移行しており残念です。
- ・ zoom で講義をすればよいので、講義する場所への遠方への移動時間が減ったため。
- ・ アクセスしやすくなったと感じる。
- ・ アクセスの障壁が減った
- ・ オンデマンドにより、特定の日時を学会等参加に割かなくて済むため
- ・ オンデマンド配信があるとすべての発表を見られるから
- ・ オンデマンド配信は助かるし勉強になる
- ・ オンラインがより良いわけではないが、オンラインができるようになった。
- ・ オンラインでの参加は身近になった
- ・ オンラインで自宅からでも参加できるようになった
- ・ オンラインで若手医師に手術などを教える機会を持てるようになった
- ・ オンラインで手軽に学会参加もでき、いつでも勉強できるようになった。
- ・ オンラインで手軽に教育機会を設けられる(ただし時間外にボランティアで)。
- ・ オンラインで面談が可能となったため
- ・ オンラインにより参加の機会が増えた。
- ・ オンラインによる複数のシンポジウムを拝聴できることになったことは、有難く感じます。
- ・ オンラインのおかげで参加はしやすくなったが、仕事を休めなくなり結局業務後プライベート時間を削って視聴せざるを得なくなっている。
- ・ オンラインのため、アクセスできる学会などが増えた。
- ・ オンラインは受講しやすい
- ・ オンライン会議は有用なので
- ・ オンライン講義、講演などができるため、時間を使いやすい
- ・ オンライン参加は時間の節約になる
- ・ オンライン自体は環境改善に働いている
- ・ お互い準備や講義が楽になった
- ・ かなり楽になった
- ・ だいたい対面で行うメリットがなにもない。移動しなくてよい。本当に行きたい学会にはいくける。
- ・ ツールとして便利であるため
- ・ デジタル化の良い部分を導入するきっかけとなるいい機会だった。
- ・ どこからでも参加出来る会議が増えた。
- ・ どこでもできるから時間を自由に使える。
- ・ どこにいても会議や学会に参加することができ、学ぶ機会が増えたため。
- ・ フレキシビリティが改善したため
- ・ フレキシブルな対応が可能になった
- ・ わざわざお金と時間をかけて遠方に学会参加しなくても自宅でも気軽に参加できるようになって、明らかに参加時間が増えた。これは、より現場に近い医師の方が恩恵を受けている。
- ・ 移動コストが激減した。
- ・ 移動にかかる時間/費用が軽減された。
- ・ 移動にかかる時間がうく分、その他のことへ時間を割ける様になったと思う。
- ・ 移動に要する時間が減り、教育に専念できるようになった
- ・ 移動に要する時間が減少した。一方、一方向性の教育機会が増加したことで、医師として不可欠なコミュニケーションスキルを養う場が減少したようにも感じる。
- ・ 移動のロスタイムが減った。
- ・ 移動の時間が空き、オンラインでじっくり内容を学べるようになったため。同時刻に行われる複数の発表もオンラインではすべて拝聴することができるから。
- ・ 移動の必要性がなくなったことで、参加の敷居が低くなった。
- ・ 移動や場所の制約がなくなった。一方で、リアクションが得られにくい、という問題がある。
- ・ 移動時間がないことと好きな時間に見れる、もしくは参加できるから
- ・ 移動時間がなくオンラインで学会参加できるようになったため、参加できる学術集会增加した。
- ・ 移動時間が減ったため、オンラインですむような研究会への参加が楽になった

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 移動時間が減って、学会参加による教育がしやすくなった。
- ・ 移動時間が減り、自分のために使える時間が増えた
- ・ 移動時間などが減るので、教育業務がよくなりました。
- ・ 移動時間の節約、それに伴う交通費が発生しなくなった
- ・ 移動時間や拘束時間が減ったので、時間的な余裕ができた。
- ・ 移動時間や費用の節約 診療時間に制限されずに自己研鑽が行える
- ・ 移動時間を考えなくてすむ
- ・ 移動時間削減によるワークライフバランスの改善
- ・ 育児を終え、子供が寝てから研究会のオンデマンド配信などを視聴できるようになった。
- ・ 遠くまで行かなくても参加できる(北海道)
- ・ 遠出しなくても気軽に参加できる
- ・ 遠方からでも参加でき、スライド自体もより見やすくなっているため。
- ・ 遠方で開催する学会についても参加ができるようになった。オンデマンド配信などを利用し、会期を過ぎても発表を聴く機会ができ、新たな情報を得やすくなった。
- ・ 遠方の学会や研究会に参加しやすくなった
- ・ 遠方への移動の時間がないことが素晴らしい。児を抱えた女性の活躍のためにもオンラインは維持するべき
- ・ 遠方へ移動する時間がなくなった分、教育などに時間を使用できるので
- ・ 遠方開催の学会などにも、現地に行かずして参加できる。
- ・ 何回も同じことを話す必要がなくなった
- ・ 何度も繰り返し見られる。移動時間、費用などの負担が減る
- ・ 家で学会発表を聴けることは有意義。
- ・ 会場に移動する必要がなくなり、移動時間を別の業務に充てることができるようになったため。しかし、必ずしも家庭のことに使えていない。
- ・ 会場に行く時間と労力の削減。多くがオンデマンドなため、たくさんの講演を拝聴できる。
- ・ 学会にオンサイトで参加していた頃は学会期間中の常勤医が減っていましたが、オンラインでの参加が増え、常勤医の数が確保出来るようになった
- ・ 学会には参加しやすくなった
- ・ 学会に現地参加以外の選択肢が増えたことは良かった。
- ・ 学会のポイント稼ぐために、交通費と宿泊費と診療を中止するために同僚に気を遣わなくて良くなった。今後も続けて欲しい。
- ・ 学会の現地に行く頻度が増え、休日に教育する機会が増えた。
- ・ 学会期間も休みにする必要がなくなった。
- ・ 学会参加については移動を要さず、より多くの講演を聴くことができるようになった。
- ・ 学会出張や時間外での研究会参加などが減ったので、その分時間ができた。
- ・ 学生さんは効率よく時間を使えるようになった。
- ・ 楽に情報が入手できるようになった
- ・ 感染機会を減らす良い方法なので
- ・ 簡易的なアクセス
- ・ 機会が増えたことは良いが、議論ができなくなって一方通行の教育が増えたことは課題
- ・ 気軽に研究会などに参加できる機会が増えた
- ・ 気軽に講演会などを拝聴できるのは良い。
- ・ 気軽に参加できるようになった
- ・ 居住地の欠点である移動がなくなり、参加機会が増えたから
- ・ 教えるのが楽
- ・ 教育講演の行列に並ばずすむようになった
- ・ 教育的セミナーへの参加機会が増えた。
- ・ 教室に行かなくていいから超助かります
- ・ 業務があり、オンラインに集中できない。
- ・ 勤務しながら学会に参加できる
- ・ 繰り返し見られる
- ・ 研究会への参加がしやすくなった
- ・ 現地に行かなくてもいいことで、遠方の学会でも容易に参加できるようになり、知識を取得する選択肢が増えたと考えるため。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 現地に行かなくても視聴できるため、より勉強しやすくなった。
- ・ 現地に行かなくとも聴講できるようになったため、参加がしやすくなった。
- ・ 現地に行く必要がなくなり、交通の便が悪い場所にすんでいても学会参加できるようになった。
- ・ 現地に参加する必要性がなくなったため大学での時間が確保できる
- ・ 現地以外からでも学習できる機会がふえた。
- ・ 効率的になった
- ・ 講演などから知識が得やすくなり教育に還元できた
- ・ 講義が効率的になった
- ・ 講義もしやすいし勉強もしやすい
- ・ 講義を空き時間で聞けるようになった。
- ・ 講義形式の選択肢は増えた。
- ・ 講義室への移動等の手間が省ける
- ・ 今までは参加しにくかった会でも参加しやすくなり学びやすいし、遠方の人にも教えやすい。
- ・ 今までは時間・距離的に参加できない講演や学会にも参加できるようになった。
- ・ 今まで参加できなかった学会に参加できるようになったため。
- ・ 再復習できる点は利点である
- ・ 参加するハードルが下がった。
- ・ 参加困難な人が参加可能、参加困難な場所でも参加可能
- ・ 仕事で学会の現地に行かなくても参加できるようになった。
- ・ 時間、場所を問わず学会や会議への参加が可能になったが、それがいいことばかりではない。
- ・ 時間が有効に使える
- ・ 時間の短縮、会議の簡略化がなされた。
- ・ 時間の調整がしやすくなった。
- ・ 時間をかけて遠方に行かなくて済むため、移動時間を教育の準備にあてられることと、現地に行けなくても Web で拝聴できるため多くの情報が得られる。ただし、オンデマンド配信が少なくなっているのは残念である、
- ・ 時間的・距離的制約に縛られない
- ・ 自己研鑽の時間が増える
- ・ 自宅から参加できるようになったため
- ・ 自分のタイミングで見られるタイプのオンデマンド形式が増えたから。
- ・ 自分自身オンラインで知識を得ることが増えたため。
- ・ 手軽に勉強会や学会に参加できるようになり、情報を集めやすくなった
- ・ 受講できる機会が増えた
- ・ 従来より、都心部での学会大会や会議には(自費を含む)多額の交通費・宿泊費がかかっていたが、その負担が無くなり、より気軽に参加できるようになった。
- ・ 出かける必要がなくなったから
- ・ 出張の移動時間の短縮につながった
- ・ 出張の移動時間や交通費が省けるようになった点は評価できる。
- ・ 出張の減少により、時間的・金銭的負担が減った。
- ・ 純粹に参加可能な機会が増加した。
- ・ 場所を選ばず学会や講演会に参加できる
- ・ 場所を問わない。
- ・ 状況によってオンラインを活用できる
- ・ 職場以外からの講義が可能となり、学会参加も同様にどこからでも参加でき、さらにはオンデマンド配信などで学会講演を後日視聴できるようになったため。
- ・ 色々な情報が得られるから
- ・ 色々参加できるようになった
- ・ 新しい知見を得る機会が増えた。
- ・ 専門医更新に必要な単位取得がしやすくなった
- ・ 全国の勉強会に気楽に参加できる
- ・ 他の病院の医師と教育の機会を共有できる。ウェビナーで、遠方(国外含め)の医師の講演を聞く機会が増えた。
- ・ 他県の学会への参加が容易になった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・多くの勉強会へ参加できる機会が増えた。
- ・体調不良学生や遠隔地居住者への教育機会が確保される
- ・対面だけでなく開催できることが分かり普段参加できない人もできるようになった
- ・対面形式が制限されても教育の機会が維持される
- ・単純に教える側のアウトプットの手段が増えたから。(教わる側の意見は未確認)
- ・地方に住む私たちにとって、都会で行われる学会参加というのはとてもハードルが高いです。マンパワーが減少しますが、かといって手術件数を減らせるわけではありません。オンラインしかもライブではなくてオンデマンドで視聴することにより最新の知見に触れることが出来ます。
- ・地方医師は旅費や出張日程からも学術集會に参加しづらいが、オンライン開催、特にオンデマンド配信により、より最新の知見も含めて有益な情報を得やすくなり、日常診療や教育へも反映されている。
- ・通勤時間を家事や私事に使えるようになった。
- ・提供する側も、受ける側も、効率が改善した。時間がない、あるいは田舎勤務者にとっては福音であったらう。
- ・田舎なので都会で行われるものに出席しやすくなった。
- ・当日参加できなかった学会を視聴できるようになった
- ・同時刻で参加できない企画も公聴できるようになった。
- ・得られる情報が増えた。
- ・内容がまともな講義が増加していると感じます。
- ・不要な出勤が減り、休みことへの抵抗が減る
- ・負担となっていた出張費用が減るため
- ・物理的に移動の手間や時間が省けたため、その他に割ける時間が増えた。
- ・便利
- ・勉強会への移動時間が必要なくなった
- ・北海道からの学会参加は、距離的な問題から難しいことが多かったが、参加しやすくなった。
- ・無駄な移動時間などが減ったのでこちらは助かる。ただログインだけして講義を聞いたふりしている学生は結構いると思うし、対面でない講義は面白さは半減していると思うので学生側にとって良いかどうかはわからない。
- ・無駄な移動時間や交通費・宿泊費が減ったから
- ・無駄な会議はかなり減った。ただ、いまだに会議のための会議が多く、本気で医師の拘束時間を減らそうとは思えない
- ・無駄に現地参加する必要がなくなり、より自分の求める内容を得やすくなったから
- ・無理に現地に行かなくても学会参加が出来るようになったため
- ・明らかにスライドが見やすい 移動が減ったので体力的に楽 場所の移動による遅刻が激減
- ・様々な形を選択できるようになり、とくに空間の制限がなくなったから。
- ・良くなったが、その分、会議や勉強会が開きやすくなり、回数が増えた。

#### \*\*変わらない

- ・E-learning やオンライン会議システムを用いた授業など手段は確かに増えました。離れたキャンパス迄出向かなくてもよいなどメリットもありますが、学生の反応が分かりにくかったりするなどのデメリットもあります。いいところ、わるいところ両方あり、プラスマイナスゼロという印象です。
- ・TPOによって使い分けるため関係ない。
- ・Webの方が参加しやすくなったので、研究会などに参加する機会が増えた。
- ・あまり参加しないので不明
- ・オンラインでの講義は学生にはいいかと思いますが、一方向になることが懸念されます。
- ・オンラインでの授業、学会参加などの取り組みはいいと思います。
- ・オンラインでは参加している実感が無いから
- ・オンラインで参加する時間さえない
- ・オンラインで事足りる場面もあれば、実際に体験しなければ意味がない場面もあるため
- ・オンラインで十分。無駄な時間が減った。
- ・オンラインで身近になった反面、ながら聞きとなり身に残らなくなることが懸念されます。
- ・オンラインにはオンラインの良さを感じています。
- ・オンラインに学生等も慣れ始めており、特に支障を感じなくなった
- ・オンラインのメリットとデメリットで相殺されて、大きな変化はないかもしれない。
- ・オンラインの良し悪しも併用しながら行っているから

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・オンラインは時短になるが、学生など受講者が集中して聞いているか、確認がとれないから。
- ・オンライン講義のオンデマンド再生はオンタイムでの授業参加率や聴講率の低下につながっている。
- ・デジタルデバイドの問題だが私にとってはという点で。
- ・メリットとしては緊急処置などで現場に行かなくてもオンデマンドで授業ができるのは大変ありがたい。デメリットとしては、学生の理解度・反応がわからない。
- ・やることは同じである
- ・やる生徒はやり、やらない生徒はやらない。変わらない。
- ・移動しないことは楽になった
- ・移動などの時間が減った良い面もあれば、講義・会議・学会などの回数が増えたためその負担も多くなった。
- ・医師の教育の大部分は OJT であるため講義・会議・学会などの影響は限られる。
- ・会議のための出張が減ったこと、学外の講義などを聞きやすくなった点は良い。しかし時間当たりの教育の質はオンラインで低下した面もあると感じる。
- ・会議や学会参加については移動時間が不要になり、良くなった面もあるが、逆に参加しやすいため参加回数が多くなり負担に感じることもある。教育面については、対面でないと効果が低下し、リクルートにも不利益であると感じている。
- ・学会参加で得られる情報としては変わらないし、アーカイブ配信になることでじっくりと学ぶことが出来ている
- ・学会等がオンラインになっても、その時間教育に費やすことはできないことにはかわらず、大きく変化はないと思います。
- ・学生教育の点では変化なし
- ・基礎的なことが備わっている人はメリットだが、備わっていない人は現場の経験が必要
- ・機会は増えたが指標がなく評価できないため。
- ・機会自体は増えるが現地参加することによる積極的な参加の機会が減るため
- ・気軽に参加できるようになった反面、積極的に参加しない人員にとっては研鑽の機会を放棄している。現地参加できないため業務時間の合間の参加になり落ち着いて聴講できない。
- ・教える内容に変化はないから。
- ・教育などで対面の方が教育効果が高いものまで強制的にオンラインにされている傾向を感じる。
- ・教育については旧態依然の様式が踏襲されているため。
- ・教育に関しては、いまだ対面で行っている機会が多いため。
- ・教育に関しては実感がない
- ・教育は本人の積極性によるところが大きい為。環境の影響もあるが主体とは思えない。
- ・教育を受ける側の姿勢が見えないため。
- ・教育業務のための準備作業は不変であるため。
- ・教育業務の関わりが少ないため。
- ・教育業務は最終的に直接指導する事が多いため。
- ・教育業務自体は変わっていないと思う。
- ・教育内容の質を維持する努力をしている
- ・結局オンラインになっただけ。内容は変わらず。
- ・結局出席する人はするし、しない人はしない
- ・効率的になった点はよいが、臨場感は薄れた 利点・欠点ありトータルとして変わらない
- ・行う内容は変わらないので
- ・参加しやすくなったが、その反面、現地開催ほど実にならない。
- ・参加しやすくなった良い面と、対面でディカッションできない悪い面がある
- ・参加する自由度があがった点は良かったが、オンラインでの講義の手ごたえはわかりづらい
- ・参加できる機会は増えたが、対面による教育の良さは失われている
- ・参加はしやすくなったが、現地に行った方が身につけやすいということを実感した。
- ・参加機会は増えたが「顔」が見られないことでフィードバックしにくくなった
- ・参加機会は変わっていない
- ・時間の制約が減ったから
- ・自宅もしくは職場でできるのはいいが、数が増えた。特に会議。
- ・実際の患者さんを前にした実診療を用いた教育の機会は減っているから。
- ・実習に関わる事が多く実感なし
- ・授業資料などが洗練された一方、対面よりコミュニケーションの質が下がった。
- ・情報を発信することは容易になったが、レスポンスを確認することが難しくなった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・他の仕事も増えているから
- ・多くの会議や学会に参加しやすくなった一方で、参加のモチベーションはやや下がった
- ・対面またはオンラインであっても教える質は変わらないと思う。
- ・対面式と比べて質疑応答はやりにくい。半面、アクセスはしやすくなったので参加はしやすくなったと思います。
- ・地方在住者としてはオンラインが増えたことで学会に参加しやすくなった。一方、ディスカッションは対面の方が深いと思う。
- ・直接教育には結びついてない
- ・特に支障がないため。
- ・費やす時間には関係ないため
- ・必要なものはやらざるをえない。
- ・必要な教育内容は変わらないから教育者により方法による影響は補正されるから
- ・変わらないというより、一長一短ある。場所を問わず参加できることは良いが、参加者の考えや思いが、対面よりは伝わらない。また、名前だけの参加になりがちである。
- ・便利なツールは増えたが、教区の質字体は変化ない。
- ・毎年講師が授業をするということは変化がない。
- ・無駄な時間が減った
- ・利点、欠点の両面あるため。
- ・良い点:気軽に参加できる(遠方に行かなくてもいい)
- ・悪い点:直接の質問などができない。

#### \*\*悪くなった

- ・Face to face でできなくなった
- ・Face to face の機会が減り理解度に変化あり
- ・OSCE の練習がオンラインであったため、オンライン診療の練習となってしまった
- ・Web ではダイレクトな反応がわかりにくいいため、会話もなく一方通行でのやり取りになる傾向がある。また、理解が悪いところ、良さそうなどがわかりにくいことで、講義内容の反省がむずかしい。対面実習が難しいこと。
- ・WEB 講義は一方向性であり、対面・双報告での教育が難しくなった。
- ・いつでもどこでも出席できる一方、講義者と視聴者のやりとりが減った。きちんと聞いているかどうか、伝わっているかどうか、分からない。
- ・オンサイトに比べると反応がわからないから。
- ・オンサイトよりかなり工夫しないと興味関心が湧かない。
- ・オンラインであれば集中力が途切れる
- ・オンラインだと学生が理解してそうかの雰囲気かわからず、一方通行な感じになってしまいます。
- ・オンラインだと聞き流すことが増えてしまったり、他の業務から離れられないため
- ・オンラインでこなせる内容も多いが、実際に対面することでの人対人としてのコミュニケーション力は磨かれない。医療現場では人としてのコミュニケーション力は重要で、その点はマイナス。
- ・オンラインでの講義や学会参加は、直接参加より質が落ちると感じる。
- ・オンラインでは学生に実感がない。(寝ている、離席している)
- ・オンラインでは限界がある。特に実技はオンラインでは不可能
- ・オンラインでは集中できない学生が一定数おり、そのような学生は知識が驚くほど少ないことがある。
- ・オンラインでは身につかない。
- ・オンラインでは伝えきれないこともある。コミュニケーション不足による教育の質の低下が懸念される。
- ・オンラインでは反応が鈍く、どこまで伝わっているのか確認しながら進めていくのが難しい
- ・オンラインで教育内容を履修できても医療現場の様な対面式で得られる知識吸収は困難であり、臨床実習のみでは得られない教員との交流により得られる教育の場が減少する。知識のみが向上する医師が増加し、対人関係が困難なものが増加する懸念がある。
- ・オンラインで十分な医学教育は不可能
- ・オンラインのポリクリに意味があるかわからない。
- ・オンラインの教育効果は限定的であるため
- ・オンライン学会は日常の仕事を制限して机に座っていなければならないが、実際はその他の仕事をしてしまうため、ほとんど内容を聞けていないことが多かった。
- ・オンライン向きのものとそうでないものがある。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・オンライン講義では著作権の問題があり、今まで以上に気を遣う必要がある。
- ・オンライン講義により学生の集中力が落ちている。
- ・オンライン講義はその場の学生の理解度を測定しづらい。
- ・オンライン講義は相手の反応がほぼ把握できないため。
- ・オンライン授業では学生の反応を感じる事が出来ず、知識だけを提供するのであれば、医師国家試験用の予備校が作る授業の動画を流しても一緒だと思う。
- ・オンライン対応によりPC前に居る時間を確保せざるを得ないため
- ・オンライン用のデータ作成など、追加の業務が増えた
- ・じかに教えられないから。
- ・つないでいて実は聞いてない
- ・どうしても時はオンラインもいいが、現地で生で講義を聞き、学会ブースでの最近の話題を聞くことも重要である。
- ・ながら受講が増えただけだから。
- ・まだ慣れてないため。
- ・やはり対面での講義の方が、伝わりやすい。
- ・やはり対面式の方が学ぶ姿勢が生まれやすいと思うため
- ・やる気のない学生が増えた
- ・ライブ感がない
- ・リアルで発表、交流しないことには成長はない。
- ・レスポンスがないと、しゃべりにくい。
- ・安易なWEB化で物理的な量が増加し、負担増での質低下を来している。
- ・医療においては、診療参加が最良の教育の場であるため
- ・会議の回数が極端に増えた
- ・学会参加時にできた仕事ができなくなった(授業スライドの準備など)。
- ・学生が授業の動画そもそも見ない
- ・学生との距離が大きくなり、学生の期待値が下がっているから
- ・学生と対面での実習教育困難
- ・学生のアンケート結果によると、オンラインよりも対面を望む声が多いから
- ・学生のリアクションが乏しい
- ・学生の反応がわからない
- ・学生の理解度と学習意欲の低下
- ・学生講義はオンラインだと反応がわからずやりにくい
- ・学生実習の参加制限などが強く(施設間の差はあると思うが)、学生教育の質は確実に低下したと思う。
- ・学生同士のコミュニケーションを減らしている。
- ・患者さんの事例等々、顔写真で診断を付けるような場面が多いが、オンラインだとそのような画像を非常に乗せにくい。学生が自由にダウンロードできるため、出典等々のしぼりで講義の自由度が減り、窮屈でつまらない講義になりがち。
- ・患者の診察が制限される
- ・慣れもあるが個人的にはオンサイトに比べ緊張感がないため集中できないから。
- ・機械的な教育となるため
- ・議論が少なくなった
- ・教育という点では、やはり直接対話をしながら進める方が効果が高いと思う
- ・教育においては、学生の反応がわからず、学生の理解度、求めるものが把握できません。
- ・教育に割かれる時間に変化はないかもしれないが、参加できるのみできない／忘れるなど心理的な悪変化が増えた。
- ・教育方法の制限があるため。(個人情報の保護の観点でオンラインで出来ないことが増えたり、実習時間が減った。)
- ・業務が多い
- ・現地の学会に出席する方が集中できる。
- ・公衆の面前で発表する機会が減り、プレゼンの質が落ちたと思う。
- ・講義や発表に対する聴き手側の反応が受け取れなくなったため。
- ・講義をしていても一方通行で、学生から反応がなく、効果が実感できない。ログインしているだけで聞いていない学生も相当数いる。
- ・座学分は良い面もあるが、臨床医学としては対面やノンテクニカルスキルを含めたコミュニケーションの側面が大きい。
- ・仕事を休む必要がなくなり、学会参加する意欲がなくなった

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・試験の座席数を間引くため、試験の部屋が多くなり、試験監督が多く輩出されるからです。
- ・資料の作成時間が増えた
- ・自己研鑽の気力が失せた。
- ・質問の回数などが減った。
- ・実技や診療の雰囲気など、対面でなければ伝えにくいことがあります。また、座学でも Web では反応がわかりづらいため、やりにくさを感じます。
- ・実際に行かないと、オンラインだと学会の内容を見なくなった。
- ・実際に手を動かしたり体験する実習が減ったから。
- ・実際の物品を使った指導が難しい、リアクションがわかりにくい。
- ・実習、実技が出来ない
- ・実習できない学生が増えた。
- ・実習についても臨床で実施できる場面が限られるようになった
- ・実体験として得られる知識、技術が少なくなった。感動が少なくなった。
- ・準備などに時間がかかったり、学生のリアクションを感じにくい。
- ・準備に手間がかかる
- ・診療業務に駆り出され、学会に参加できなくなった
- ・身体所見などの手技の指導が出来ない等、座学以外の講義が効果が低い。
- ・身体診察や直に患者を診察する機会が減っています。
- ・人と人との接する機会が減った。
- ・人の直接のつながりが無いのは致命的に悪い。誰がこんな社会にしたのか？馬鹿らしい。勉強せずコロナを怖がり、ワクチン推すばかりの人間のため。
- ・人間性が失われている
- ・生徒からの反応が無機質
- ・相手の顔や反応が分かりにくい
- ・対面して気軽にコミュニケーションをとることで得られていた教科書的でない実臨床に即した知識が少なくなっている
- ・対面じゃないと伝えられないことも多い
- ・対面でのほうが伝えやすこともあるが、それが難しい
- ・対面ではなく意欲や気力が減った。
- ・対面のコミュニケーションの方が教育には適している
- ・対面の講義であれば、ある程度のジェスチャーや黒板ないしホワイトボードを使用するなどして、咄嗟の補足説明などしやすいが、ビデオ講義ではそれが難しい。
- ・対面よりは集中できない
- ・対面式でないため質問が減った
- ・対面式議論の方がやはり充実しているため
- ・対面実習・臨床実習などの減少による臨床教育の低下
- ・壇上での議論以外の雑談と呼ばれる情報交換が教育には必要だから。
- ・知識を求めないと得られない時代になった
- ・直接指導の方が、受ける側の態度が真摯であると感じる。
- ・直接的な指導、集団での直接的なミーティングが減少。
- ・反応がわからないのでやりづらい
- ・反応が見られない。ログインだけして実際は参加していない人間が一定数いる。
- ・反応が分かりにくい
- ・表情が見えないことで、どの程度理解しているかわからない
- ・聞いていない学生が増えた。
- ・良い面はあるもののオンラインでの限界を感じる。

#### 助教・女性

##### \*\*よくなった

- ・(現場での教育は別として)出席できる機会が増えた。
- ・Webの講演会に参加しやすくなった。
- ・Webの資料を活用出来る

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・アクセスがよくなったため、教育の機会が増えてよかった。
- ・いちいち出向かなくても良くなったのは、学生さん講義時間などの確保のためには良かったです。
- ・いつでもどこでも講義が受けられるのは良いことだと思います
- ・オンデマンドで視聴できるので
- ・オンデマンド配信で、何度でも視聴することが可能となったため。
- ・オンデマンド配信で後日聞けるから
- ・オンデマンド配信などで多数の講座がみられるようになったり、遠方開催の学会を視聴することが容易になった。
- ・オンラインだと移動せずに学習に携われるため学習できる機会がふえた
- ・オンラインだと学会に参加しやすい
- ・オンラインであると、学会の視聴が後日もできるため、オンライン以前の学会より関心のある分野について視聴参加する時間が増えたため
- ・オンラインでの学会参加は時間をかけて講演を聴講することができ、現地参加より知識を得ることができることがあるため。
- ・オンラインで学会に参加できるのは非常に効率的。子育てや介護など事情がある人にとってもオンデマンドで勉強しやすい
- ・オンラインなら職場からでも家からでも参加できるから、参加の機会が増えた。
- ・オンラインにより移動時間が減った
- ・オンラインのお互いの利便性
- ・オンラインの方が参加しやすいから
- ・オンラインや、対面など選択が増えたが、大学の方針で直前で変わることがあった。
- ・オンライン学会参加で、費用や時間の負担が減った
- ・オンライン参加により、より参加できる学会などが増えた。
- ・これまで参加できなかった学会や会議なども家にいながら参加することが可能になったため。
- ・これまで労を費やしていた時間を少しでも教育業務に充てられ、また育児などで制約されていた機会や時間も有効に使えるようになった。
- ・さまざまな方法で情報を得られるようになった。
- ・どこにいても学会等に参加できる。録画されているものはいつでも・再生速度を変えて視聴できる、見返しができる。
- ・やりやすい、無駄な時間省ける
- ・わざわざ学会会場に行かなくても学会参加ができるので、とてもありがたい。
- ・移動がなく会議・学会に参加しやすい。
- ・移動が減って時間の削減になっている。
- ・移動しなくて済むため気軽に参加できる
- ・移動に時間が掛からなくなったので参加しやすくなりました。
- ・移動時間がなくなったため時間に余裕ができたため
- ・移動時間がなくなり、学会に参加しやすくなった。
- ・移動時間が軽減し、家庭への負担が少なくなった
- ・移動時間が省けるので、資料作りの時間がとれる。オンデマンドも可能だと、時間の融通がききやすい。
- ・移動時間が短くなった。遠方でいけない会に行けるようになった。
- ・移動時間が短縮され通常業務が行える、子供を寝かせた後に会議が行える、感染症関連の隔離時でも参加できる
- ・移動時間が無くなることにより、有効に時間が使えるようになった
- ・移動時間の節約により教育業務の質の改善
- ・移動時間の短縮、空いた時間で学会参加が可能になった
- ・育児しながらだと夜間の外出が難しいため
- ・育児のため現地に行けなくても参加、視聴できる機会が増えたから。
- ・育児中でも遠方の学会などを聴講できる
- ・育児中なのでオンラインで学会参加できるのはありがたい。今までは参加できず単位の取得に苦勞した。
- ・育児中の女性にとっては、出張を伴うオンサイトでの学会には参加しづらい。オンラインになり、ライブ配信だけではなくアーカイブでも視聴できるようになり、情報のキャッチアップはしやすくなった。
- ・遠くの学会でも参加できるので単位を集めやすい。
- ・遠隔地にいる者同士でも参集するハードルが下がり、学ぶ機会が増えた。各種オンラインツールに精通した。
- ・遠方での学会参加もオンラインでできるようになった。
- ・遠方での大きな学会に参加しやすくなった。
- ・遠方で開催の学会に参加しやすくなった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 遠方で今までなら参加できなかった学会にオンラインで参加できるようになった。子育てしながら、自宅いながら参加できる。
- ・ 遠方で参加しにくい学会にも参加しやすくなった。
- ・ 遠方に移動する必要がなく、時間の節約になった
- ・ 遠方に行かなくても学会・会議ができるようになった
- ・ 遠方の学会でも参加することができる。
- ・ 遠方の学会にもオンラインで参加可能・時間の有効活用
- ・ 遠方の出張、学会に参加するために子どものシッター確保が不要となった。現地に子どもを連れて行く予定で学会等を組んでも、子供の発熱などで急に参加出来なくなるなどの事態が減った。(オンライン参加であれば子どもの看護しながら参加できる)子どもの分の移動費用、宿泊費用を捻出しなくても良くなった。
- ・ 家で子供がいても勉強会などに参加できるようになったから
- ・ 家族の介護で参加できなかったものに参加しやすくなった
- ・ 開催場所に行かなくて良いので参加できる機会が増えた
- ・ 学会に参加しやすくなった。宿泊などが不要でありがたい
- ・ 学会に参加し新しい情報を得やすくなった。
- ・ 学会に参加はしやすくなったことにより、情報収集がやりやすくなり、教育につながる。
- ・ 学会のオンデマンド配信の講演で単位が取れるのは本当に助かります。しかし、オンラインの講義を準備する側となると、オンデマンドのスライド作りにはものすごく時間がかかるし、パソコンに向かって喋るのは、どうも慣れません。
- ・ 学会や研究会に参加しやすくなったから
- ・ 学会参加の機会が増えた
- ・ 学会場に行かなくても、また自分の空いている時間に参加できるものがある。
- ・ 学会等に参加するときの移動時間が必要なくなった。オンデマンド動画で勤務時間外に見ることも可能になった。
- ・ 学生からみた場合、動画の再生速度の調整や繰り返しの再生などにより、自分のペースで学習できる。
- ・ 学生の講義と自分の学会参加などを同日に行うことが可能になったため。
- ・ 学生への講義や面談がオンラインで行えるようになり、移動時間が短縮された
- ・ 学生講義がオンラインでできるようになった
- ・ 基本的に学会は遠方のため、育児中は参加できないことも多く、現地に行かなくても勉強機会が得られるため。
- ・ 気軽に参加できるようになった
- ・ 教える側はオンデマンドでも十分ではある
- ・ 教育のためのツールが増えたように思う。
- ・ 教員の負担の軽減。一方的な配信になるが、それが故に聴いてもらえる魅力的な授業を行おうというモチベーションになる。教育系 YouTuber を参考にしている。
- ・ 現場に行かなくても参加できる講演会や講習会、学会が増えた。教育の機会はむしろ増えた。
- ・ 現地に行かなくても済むので、時間のロスがなくなったので業務に割ける時間が増えた。
- ・ 現地に行かなくて済むので移動時間分と体力温存に役立った。
- ・ 現地参加を強要されると、交通費や宿泊費用の捻出のため、家計が圧迫されるが、web での参加が認められると、学会参加費用を払うのみで学会に参加可能であるため。
- ・ 交通費がかからず、学会などに気軽に参加することができるようになった。
- ・ 効率よくできるようになった
- ・ 好きな時間に WEB コンテンツで学習することができる
- ・ 拘束されている時間が有効に活用できるため
- ・ 講義がオンライン、しかも事前収録動画で済むようになったので、負担が減った。大学側の配慮が全くないので以前は講義日が外来日に重なっても自分でどうにかするしかなく、実際どうにもならないので困っていた。
- ・ 講義では一度録画したものをオンデマンド配信してもらえるので楽。PBL は Web になったことで議論が浅くなった感はある。
- ・ 今まで現地に行かなければ参加できなかった学会や会議に参加できる。
- ・ 今まで仕事が終わらず参加できなかった会場での講演会なども、医局から参加できるようになったため。
- ・ 参加が容易となった。
- ・ 参加できなかった学会や研修会に参加できるようになった
- ・ 参加できる学会が増えた
- ・ 参加人数が増えた
- ・ 参勤交代をしなくても単位を取れるようになったため。
- ・ 子どもの体調によらず業務を遂行しやすくなった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・子育てしながらの参加が可能になった。
- ・子育てをしながら参加しやすくなった。
- ・子育て中であっても参加しやすいため。(ながら聞きになりやすいデメリットもあるが。)
- ・子育て中のため、遠方の学会に行くことはできない。オンラインであれば参加できるので、ありがたい。
- ・子育て中の女性にとっては web での会議や学会参加機会が増えたことは、現地のみで開催では参加できないものにも参加しやすくなり、メリットが大きかったと思う。
- ・子供を家で見ながら参加するなどがしやすくなった
- ・時間が効率的に使えるようになった
- ・時間が重なっていたセッションも別に視聴できる
- ・時間をかけて現場に行かなくても参加することができる
- ・自らのよいタイミングで必要な講義が受けられる。
- ・自身の都合のいいタイミングで講義、学会を見ることができたため
- ・自宅からでも参加できるようになり、結果的に参加人数が増えたと思う
- ・自宅からでも自己研鑽や情報収集ができるため。
- ・自宅からの参加ができるため。ただしハイブリッドの場合など、逆に現地参加を希望・選択しづらくなった。
- ・自宅から勉強会に参加することができるなど
- ・自宅で育児や家事しながら勉強できるようになった
- ・手術や診療の時間を授業によって変更したり、都合をつける必要がなくなったから。
- ・周囲の家庭のある人は喜んでます
- ・従来は、小さい子供を抱え、夜間の講義や会議、遠方の学会参加ができない日々でした。しかし、オンラインでの講義、会議、学会が増えたことにより、学びの機会をいただくことができました。オンラインでは真面目に聴講しないのではという意見もありますが、私自身は参加したくても参加できない会に参加することができるようになり、感謝しながら集中して参加することができています。
- ・出向かなくてよいのは良い
- ・出張行かなくていいのは素晴らしい
- ・小さな子供がいる、地方在住でも国内総会や国際学会に参加できるようになった。オンデマンドもあるため、自分の時間の都合にあわせて視聴できる。
- ・場所や時間が柔軟になり参加しやすくなった
- ・職場から視聴できると時間短縮につながる
- ・診療業務や家庭での労働の合間に学会に参加できるようになったから。
- ・他の業務と時間が重なってしまってもビデオ講義で対応できることがあるから
- ・他校の授業依頼がオンラインになったことで移動時間のロスがなくなった。
- ・多様な形式で教育を継続することができる
- ・短時間のみでも、出張なしで学会参加が可能
- ・地方でも育児中でも参加できた
- ・地方で開催の学会もオンラインで参加できるようになった
- ・地方にいながら東京の勉強会に参加できる。
- ・遅い時間のカンファレンスでも職場に居ることを強要されず、自宅から子育てと両立できるようになった
- ・得るものが多くなるから。
- ・ unnecessary 対面授業が減った。
- ・聞きたい内容を確実に聞ける
- ・無駄がなくなる
- ・夜間カルテ等の事務仕事をしながら動画が見られるようになった
- ・余計な労力が減った
- ・様々な科目でオンライン授業があったので、教員・学生ともにオンライン授業に慣れてきた。
- ・理解の遅い学生さんが何度も講義を聴けるようになった

#### \*\*変わらない

- ・ web の授業が増え、実習が減った。
- ・あまり教育業務に関わっていないため
- ・オンラインでの教育には利点と欠点があるため。
- ・オンラインでの教育を現時点で担当していないから。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ オンラインでの講義や学会参加では、ディスカッションが乏しい(参加する機会が増える割に、集中できず効率が悪い)ように感じます。←悪い面
- ・ 一方で、これまで移動に費やしていた時間がなくなり、教育業務に使える時間が捻出できるようなにも思います。←いい面
- ・ オンラインで参加出来るため、参加頻度は高くなったが、子供達がいると結局集中出来ない事が多いから。
- ・ オンラインの有無に関わらず向上心のある人は進んで学びに行くし、向上心の無い人は学ぶ機会を与えられても活用はしないため。
- ・ オンラインも対面もどちらもよい面があるので使い分けるのがよい、選択肢が広がったという点ではオンラインが一気に普及したことはよかった
- ・ オンライン会議ができるようになって、会議が無駄に増えた
- ・ コロナ初年度は実習をオンラインで行う必要があり、とても大変だったが、今はほぼ従来通りの実習に戻った。
- ・ どこでも学会に参加できるのは有り難い。
- ・ フィードバックがないので、わからない
- ・ 育児で忙しい時間帯に講演会が組まれることが多く、参加が難しいことが多い
- ・ 遠隔講義やオンデマンドが利用できるようになり、教育ツールの幅が広がった。一方で、オンラインでは臨場感が得られにくくなったり、手技などは困難である。総合的には、利点も欠点もあり、そうした点で平均して変わらないと判断した。
- ・ 開始時間が労働時間外。
- ・ 格差が広がったと思います。
- ・ 学会に参加しやすくなったメリットと、ハンズオンなどの現地でしか学べないことができなくなったデメリットがある。
- ・ 学会参加しやすくなったが、学生とのコミュニケーション機会が減ったと思う
- ・ 学生の学習目標が明確になったが相互やりとりができなくなった。
- ・ 学生実習は変わらず対面なので。逆に人数を減らして2回しないといけないうこともあり、負担が増えた。
- ・ 機会は増えているが、利用者の意識は変わらないため
- ・ 教育業務に携わっていません
- ・ 結局準備が大変になった
- ・ 元々の担当講義数が少ないため
- ・ 講義等は一方向的になるため、内容によっては対面の必要性は感じるが、会議や学会等は同じように学ぶ機会を得られる可能性を感じる。
- ・ 座学に関しては良い効果もあったが、実技に関しては直接見せることもできないし、動画でも教えられることに制限があるので大変だった。
- ・ 参加しやすくなって、前よりも色々な講演が聞きやすくなったのは良いこと、反対に何回か観れるので聞き流して頭に残らなかったり、対面でないので質問や発表の場が少なかったりするのが悪いこと
- ・ 参加しやすさとしにくさ どちらもあるから
- ・ 参加する回数が増え、移動時間が減ったので、トータル変わらない
- ・ 参加機会は多くなったが、現地参加ではないため気が付くと終わっていることもしばしば
- ・ 時短勤務であり教育に触れる頻度が少ないため。
- ・ 自主学習はしやすくなった。教育面は、学生の反応が分からないため、ディスカッションが出来ない。
- ・ 自身が教育研修(とくに学会が指定する研修など)を受ける際には、これまではわざわざ学会会場に行かないと単位が認定されなかったものが、オンライン受講で認定されるようになり便利になった。一方で、教育研修を与える講師側の立場だと、オンライン用の準備を別途行う手間が生じたと思われるし、実技実習に際してはオンラインでは困難と思われるため、よくなった面と悪くなった面どちらも考えられるとおもう。
- ・ 常勤 1 名のため遠くへの出張によりコロナ感染を避ける必要があるが、オンライン学会はそれがないので良かった。会議はトップダウンが多いので、現在所属している付属病院では、PC 上で閲覧板できる状況なので、生産性の無い時間は研究や自己研鑽にあてるべきだと思います。
- ・ 対面でないので反応が掴めない
- ・ 特に変化はないと思います。
- ・ 特に変化をきたすことがなかった。
- ・ 内容は変わらないから
- ・ 病棟での教育は変化なかった
- ・ 聞く方はオンラインでも、講義をする方は特にすることに変わりはないから。
- ・ 良い面と悪い面があります。対面の方が伝えられるものは多いですが、効率性も重要なのでオンラインも残すべきだと思います。
- ・ 良い面悪い面あり、選択しづらいです。学生教育は、対面よりオンラインの効果は低いと思います。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

##### \*\*悪くなった

- ・(学生講義)学生に直接指導できず、理解度に合わせられない。
- ・BSTも講義も、直接のやり取りができなければ得られるものが半減するため
- ・エコー、診察手技はオンラインでは正確に伝わっているか判断しにくく、診療の楽しさが伝えられません。
- ・オンラインが増えて身に入らない。
- ・オンラインだと、いつか聞けば良いとなり、結局聞かずに終わることがある
- ・オンラインであると診療の合間時間に学会参加になるため、実質診療業務で参加できない
- ・オンラインでは経験しにくい学習の機会を学生が失っている
- ・オンラインでは対面より情報が伝わらない
- ・オンラインでは伝わり切れない
- ・オンラインには限界がある
- ・オンラインの利便性は高いものの、対面で他施設の医師やエキスパートと話をすることで、視野が広がったり、新たなチャンスを得られることが多いと身を持って実感しているから。
- ・オンラインは相手の反応が分からず、一方で気になりがち
- ・オンライン授業では学生の反応が分からない、また実習に限界がある。若い専攻医を誘って学会へ連れていくことがなくなり、若手の学会参加率が低下しているように感じる。
- ・オンライン授業では教育できる内容が限られる
- ・オンライン用のコンテンツ作成が増え、大変ではあるが、学生からの評判は良い。今後もオンラインを継続できれば、この2年間の努力が基盤となって教育業務が少し楽になるかもしれない。
- ・コミュニケーションがとりづらい
- ・リアルで感じる刺激が減ることにより、意欲の低下が起きていた
- ・学会等の参加者の立場としては、大いに助かっているが、授業や講習会をする立場としては、学生や聴衆の反応もわからず、インターアクションも難しいため、質が落ちていると思う。
- ・学生がサボったり、実習ができなかったり。
- ・学生との交流が少なくなった
- ・学生の真剣さは減少している
- ・学生の反応が見えない
- ・現場での臨床実習の機会の減少は学生の臨床技能を培うために代えがたい機会であるため
- ・講義した時の学生の反応がわかりにくく、フィードバックが少ない
- ・講義やカンファレンスしても相手がどうリアクションしているか、理解しているかわからない
- ・講義を受ける側の反応がタイムリーに伝わってこないため、どの程度の理解を得られているのかがよく分からないまま講義時間が終わってしまうから
- ・講義資料の準備に時間がかかるようになったため。
- ・今まで遠いからと断れたがオンラインでどこでも参加可能となったので断れないため他の業務が増えた
- ・自分の担当領域(緩和ケア)は臨床、教育を基本的に一人で担っており、大学医学部での授業担当が増加しているのにも関わらず会議等の参加数が増えて、労力を集中的に教育へ配分することができない。
- ・実際にみる機会がない。学生の意欲の低下。
- ・実習が満足にできていない。
- ・実習で現場を経験していないが故に意識の低い学生が増えた
- ・準備が面倒
- ・準備に時間を取られた割にパフォーマンスは悪いから
- ・人間性がわかりにくい
- ・対面でのフランクな場面での情報収集は非常に大切だったと感じている
- ・対面の方が教育効果が良いと感じる
- ・対面式の授業が減り、学生とのコミュニケーションがとりづらくなった
- ・知識は充実しているが対面講義ができないことで伝えられない内容がある、臨床現場での実習ができない
- ・直接実習できない
- ・通信の質によって制限がある。聞いている側がどの程度聞いているか、理解しているかが不明
- ・同じ内容の講義でもオンラインでは相手(学生)の反応がよくわからない。相手の学習度もわからず、講義する側の印象では学生の学習度は下がったと感じた。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 病院実習が中止となった
- ・ 本来なら行けないものに参加させられるようになった
- ・ 流しとけば授業単位は取れる

##### 助教・回答しない

###### \*\*良くなった

- ・ オンデマンド配信により、都合がよいときに視聴できるため
- ・ 現地まで行く時間が短縮され仕事ができるようになった
- ・ 参加が容易になった

###### \*\*変わらない

- ・ 個人的にオンラインをほぼ使用しないため。
- ・ 診療業務でいっぱいいっぱい、教育に貢献できていない。

###### \*\*悪くなった

- ・ オンラインという名のもと、臨場感がなくなった。これでは何も面白くない。
- ・ 雑務が増えた

##### 医員・男性

###### \*\*良くなった

- ・ アクセスしやすくなった
- ・ あらゆる場所や時間で参加できることが多くなったから
- ・ ウェビナーに参加しやすくなった
- ・ オンデマンド方式を採用すればニーズに合う
- ・ オンライン、特にオンデマンドで好きな時間に見られるのは良い
- ・ オンラインでコミュニケーションが取れる。
- ・ オンラインで気軽に学会に参加できるようになったため、知識を習得しやすくなり、それを教育にも活かせるようになったから。
- ・ オンラインで講習会を受けることができるようになった
- ・ オンラインの方が内容に集中しやすい上に、後日オンデマンドで視聴することも可能だから。
- ・ オンラインは楽
- ・ オンライン授業ができるようになり、時間の使い方に幅ができた。
- ・ これまで時間や距離的な制約により参加を断念していた講演会などに気軽に参加できるようになった。
- ・ しがらみはなくなった。オンライン化でフットワークは軽くなった
- ・ パソコン画面で間近で講義や講演が聞けるので、見やすいし、繰り返し見ることができるので復習もできる。
- ・ メモを取りやすい、再度視聴がしやすい
- ・ より多様な形態での参加の仕方が可能になったため。
- ・ わざわざ会場に行かなくても参加できる機会が増えた。
- ・ わざわざ現地に行く必要がなくなった
- ・ 以前は当直等で現地参加できなければ単位を得られなかったが、そのようなことがなくなったため。ただし、やはり現地参加した方が情報量は多く得られる。
- ・ 以前よりアクセスしやすい
- ・ 移動が減り時間の制約が改善されたと思います。
- ・ 移動が不要なので参加しやすい
- ・ 移動の時間が節約できるようになりました。近くから画面を見られるようになったのでスライドが見やすくなりました。
- ・ 移動時間がかからず、知識を得られやすくなった。
- ・ 移動時間がなくなり、時間に余裕ができた
- ・ 移動時間が減り、参加できる学会が増えた
- ・ 移動時間が短縮され、地方にいても全国の学会に参加しやすくなった。
- ・ 移動時間も不要で、様々なセミナーに参加でき、非常に教育を受けやすくなった。
- ・ 移動時間等の短縮、スライドを提示しやすくなる
- ・ 医療者のコロナ感染を防ぐだけでなく、講義や学会をより効率的に行えるようになった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・育児しながら勉強出来る時もある、交通費や交通の時間が家事育児にあてられるため家族が喜ぶ
  - ・一概に良くなった・悪くなったといえず、双方ある。参加はしやすくなった。ただし、現地参加でないため、雰囲気、他施設との情報交流はできないデメリットがある。
  - ・遠隔での講演に参加できるため。
  - ・遠隔でも教育機会が増えた。
  - ・遠隔で可能なため。移動に時間がかからない。
  - ・遠方で受講できないセミナー・学会が増えた。
  - ・遠方の学会・勉強会に参加しやすくなった。
  - ・遠方まで向かわなくても良くなった
  - ・遠方や自宅からでも参加しやすくなったため
  - ・家庭の事情で勉強会に参加できないヒトに対してのオプションが増えたため
  - ・会場に行かなくても講義が聞けるから
  - ・学会はオンライン化・ハイブリッド化により、空いた時間で旅費を気にせず、時間が重複するセッションでもオンデマンドで参加しやすくなった。
- 講義については、教員側の業務時間削減には一定の効果があるが、学生側の受講態度を担保できず、クリクラの学生の知識レベルに低下がみられる。
- ・学会会場までの移動時間がなくなった、オンデマンドで見られるようになった、など効率化が得られた
  - ・学会会場までわざわざ長距離の移動をする必要がなくなったから。
  - ・学会参加が容易になったため
  - ・学会出張における移動の時間と金銭を節約できる。
  - ・学生と時間を合わせての面談がなくなった。
  - ・割ける時間は増えた
  - ・気軽に遠方の勉強会や学会に参加できるようになった
  - ・業務としては動画を来年以降も使えるので楽になった。
  - ・勤務先から勉強会に参加できる
  - ・現地に行かなくても情報が得られ、発信できるから
  - ・現地に行かなければならないという制約からの解放。現地に行けない人、たとえば子供を家で見ないといけない人でも勉強に参加できる。
  - ・現地に赴かなくても参加できることで、その他の業務などに当てられる時間が増えたから。
  - ・現地参加が必要なくなりハードルが下がった。
  - ・現地参加しなくても学会に参加できるようになったため。
  - ・現地参加する時間がない場合にも聴講できるため。
  - ・現地参加不要なのは子持ちには助かる
  - ・効率よく参加できるようになった。
  - ・講演会などがウェブ視聴できるため、参加しやすくなった。
  - ・参加機会が増えた
  - ・参加の時間的・場所的制限が減った。
  - ・時間に制限なく参加することができる
  - ・時間の確保がしやすくなった。
  - ・時間の節約になっている
  - ・時間を選ばず学習できる機会が増えたため。
  - ・自宅でも参加できる
  - ・自宅や外出先からも会議に参加できる
  - ・手軽になった
  - ・受講しやすくなった
  - ・従来なら院内の居残りの人が出ていたが、学会に参加できるようになった。
  - ・従来の対面であれば教育出来ない環境の人にも教育の機会を与えられるようになった。
  - ・出張の必要がなくなった
  - ・場所や時間を問わなくなったため。業務の間で学会に参加するという方法が取れるようになったため。
  - ・場所を固定せずに参加できるため
  - ・場所を問わず参加しやすくなった

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 診療の空き時間に学会参加が可能になった。
- ・ 全国の会にオンラインで気軽に参加できるから
- ・ 相手1人1人が見やすくなったから。
- ・ 直接現地へ行かなくても新しい知識を得ることができるため。
- ・ 通勤、通学の時間が無くなった。
- ・ 同時進行の発表を、後から聞いたりできるし、わからなければ何回でも聞けるから。
- ・ 必要な単位数などをオンラインで稼げるようになった(わざわざその場所に行く必要がなくなった)ため
- ・ 病院を離れ他の医師に仕事を引き継ぎ遠くの学会会場に参加しなくても、教育講演をオンデマンドで聴くことができたのはとても良い。
- ・ 不要な物がなくなった
- ・ 副業先でも授業や会議への出席ができるようになったから
- ・ 幅広い地域の教育を受けることができる
- ・ 便利になった
- ・ 無駄な移動時間が減り、効率良くなった
- ・ 有効な時間活用が可能となる。

#### \*\*変わらない

- ・ いずれにも良し悪しがある。
- ・ いろいろ参加しやすくなった反面、直接顔を合わせてという機会が減少するデメリットもあると思います。
- ・ オンラインでの利便性は良いと思うが、対面ほどの学習効率は得られないことが多く、総合して「変わらない」を選択した。
- ・ オンラインでも行える部分はある
- ・ オンラインでも今までと同様の教育内容が提供できる程度にオンラインシステムなどが進歩した
- ・ オンラインで参加する機会は増えたが、現地での参加が少なくなった影響もある。
- ・ やはり実際に実習させるのが一番という状況ではオンライン化は難しいがそれ以外では問題ないし、移動時間が無くなったことはメリット大きい
- ・ 一長一短
- ・ 学会には参加しやすくなりましたが、教育する内容は一緒です
- ・ 学会参加と教育は、あまり関係がない。
- ・ 学生の質は変わらないから
- ・ 関わっていないから
- ・ 機会は増えたが、直接学べないことで質が落ちた
- ・ 気軽に参加できるようになった反面、熱心ではない人も増えるのがオンライン。
- ・ 教育業務を本格的に始めたのは2年前からです。
- ・ 教育自体にそこまで関わっていないため
- ・ 結局は本人のやる気が一番重要である
- ・ 元々教育業務の機会が少ないから。
- ・ 参加しやすくなったが、逆に参加も忘れやすくなってしまった
- ・ 参加できる回数が増加したが、一回あたりに費やせる時間は減少した。
- ・ 自身が関わったのは実験教育のため全て対面であった
- ・ 自分の業務の範囲では大きな差を感じない
- ・ 場所によらず受講できるが、質は低下する
- ・ 大して役に立っていないから
- ・ 大学にいなから学会に参加できるので教育業務には影響なし
- ・ 特に学会参加などの実情はあまり変わりなし。結局 On site で参加したりしている。
- ・ 普段通り行うことがよい
- ・ 本質的には変わっていないから
- ・ 良い面と悪い面がある
- ・ 良くも悪くも変わらないと思います。

#### \*\*悪くなった

- ・ オンラインでは限界がある

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・オンラインは教育を受ける側のモチベーションが上がらない。
- ・オンライン会議やオンライン学会が増えて非常に時間が取られる。
- ・ハンズオンセミナーが減った
- ・学生が自分の講義内容をわかっているかどうか、一人一人の顔が見えないため
- ・学生と意思疎通が困難になった
- ・学生の反応がわからなくなった。
- ・機会は増えた、ただ内容は落ちた印象。人との直接交流も減り全体的にはマイナスの印象。
- ・教育分野における遠隔指導は、未発達段階かと考えます。
- ・現場で教えるのと比較し、オンラインではモチベーションや理解度が大きく低下する。
- ・最新情報のアップデートが困難になった
- ・子育て世代のコアタイムである 17-21 時ごろに暗黙の強制力をもつ勉強会が乱立し、かえって格差を生んでいると思う。
- ・事務的なやりとりのみで、人間的なやりとりがなくなったように思える。
- ・実際の診療を観ることが減り、応用力を養う機会が減っているように思う。
- ・実習の機会が減っている
- ・実地でのコミュニケーションがなくなった。
- ・場所を選ばず仕事ができるため、睡眠時間以外は常に仕事をせざるを得なくなった。
- ・接続トラブルがあったり、質疑応答のやり取りがしづらいから。
- ・対面でないと双方向が難しくなるときがしばしばある
- ・対面での価値が改めて実感できた。
- ・面と向かってする教育において、いろいろな表情が見えていた

#### 医員・女性

##### \*\*よくなった

- ・アプローチしやすくなった。
- ・いろいろな学会に参加できる
- ・ウェブで参加の利便性が増したことが大変良い。
- ・オンラインでの学会開催によりオンデマンドでの配信があり、好きな時間に気になっていた発表を聞くことができる。
- ・オンラインでの学会参加によって、より自分のペースで講義を聴いて理解することができるから。
- ・オンラインでの講義などが自由に聴講できる環境となった
- ・オンラインでの参加が可能になったため、移動時間がなくなり業務への影響が少なくなったため。
- ・オンラインで学会の内容を複数回確認できるなど利点があったため。
- ・オンラインで学会や勉強会の参加がしやすくなった
- ・オンラインは参加しやすい
- ・オンラインやアーカイブ視聴が可能のため遠方まで行かずとも点数が取れるようになった
- ・コロナ禍で学会、研究会の託児所開設が減ったため、オンライン化は必要不可欠です
- ・さまざまな機会に参加しやすくなった。
- ・わざわざ会場に行かなくてよいので参加しやすい
- ・移動しなくて済む
- ・移動にかかる手間が減った。
- ・移動時間がないため、参加しやすい。アーカイブなどがあることも多く、自分の時間で講義の聴講が可能となった。
- ・移動時間がなくなり、休める時間は増えた
- ・育児しながら学会に参加できる
- ・育児で学会や研究会に現地参加が出来ていなかったが、オンラインで参加できるようになった。
- ・遠くの学会などに参加しなくてもオンラインで参加できると楽、家庭の事情でみんながみんな遠方の学会に参加はできないから
- ・遠隔地で学会発表をしなくても良いことで参加しやすくなった。
- ・遠征が減ったから。
- ・遠方の学会にも参加できるようになったため。移動時間、交通費や宿泊費も削減でき、効率的。
- ・遠方の学会の講義も受講することができ、自分の知識も深めることができ、周囲にも還元しようという意識が生まれた。
- ・家事の合間に参加できるようになった。
- ・学会には託児所がないとかのほうが多く、子供を連れて学会に行くのは難しいので、参加できる

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 学会は旅費やホテル代がかからず、余計な体力を消費しないですむ
- ・ 学会活動がオンラインで参加可能になり参加できる機会が増えた。
- ・ 学生が自宅でも講義を受けられる環境が整い、オンライン環境以外の理由で受講内容に差が出にくくなった。
- ・ 学生講義をオンラインでできることにより、講義できる機会が増えた。
- ・ 気軽に参加しやすくなった
- ・ 教育の遠隔化ができていると思う
- ・ 興味のある分野の講義を自宅で聴講出来るのはよい
- ・ 業務が忙しく、なかなか学会に行けなかったが、時間があるときにオンデマンドで見られたり、診療の合間に参加できるようになって非常にありがたい。
- ・ 研修医の勉強会など複数施設向けに行うことができる。
- ・ 現地に行かずに済む
- ・ 現地に行かなくても学会に参加できるから
- ・ 現地に行けない時も参加できる
- ・ 現地まで行く時間をかけなくても学会に参加できるから
- ・ 現地開催より参加しやすい
- ・ 交通時間や服装などの準備の時間を削減できて参加しやすくなった
- ・ 交通費と移動時間のロスがなくなり、教育の機会にアクセスしやすくなった
- ・ 好きな時間に参加できるため
- ・ 講義を聞ける機会が増えた。
- ・ 参加しやすくなったから
- ・ 参加できる機会が増えた
- ・ 参加できる講義がふえた
- ・ 参加機会増加
- ・ 仕事を休まなくても多くの学会や研究会に参加できるようになった
- ・ 子どもがいても気軽に受講できるから
- ・ 子育てしながらリモートで参加しやすくなった。
- ・ 子育て中でも、県外移動しなくても学会参加できるため。
- ・ 子育て中でも参加しやすくなった
- ・ 子育て中でも自宅から遠隔参加できるミーティングが増えた
- ・ 子供がいてなかなか遠くに行けない
- ・ 子供がいても学会に参加できるから
- ・ 子供がいても参加しやすくなった
- ・ 子供がいるので気軽に学会参加できなかったが、オンラインが増えて勉強の機会が増えた。
- ・ 子供がいるので在宅しなければならぬが、オンラインなら自宅にいても参加できる
- ・ 子供の世話や仕事で今まで参加できずにいた学会をオンラインで参加できるようになったから。
- ・ 子供の預け先がない時も在宅で参加できる
- ・ 自宅からでも参加できるようになったから
- ・ 自宅からでも勉強会に参加できるので
- ・ 自宅で育児しながら夜間の講演を聞くことができる
- ・ 自宅にいても公演が聞けるようになった
- ・ 自宅にいても勉強会に参加できるようになり、子育て中でも参加できる状況が増えた。
- ・ 自分の業務形態にあわせて受講できることがあるため。
- ・ 小さい子供がいて、県外出張が難しい場合にも自宅から学会や会議に参加できるため、学生や研修医の学会指導医も受けやすい。
- ・ 小さい子供がいてもオンラインで好きな時間に学会の講演を聴けるため
- ・ 場所に制限されることが減った。
- ・ 場所を選ばず学べるようになった
- ・ 情報を仕入れやすい
- ・ 色々な情報を得ることができるから。
- ・ 専門医講習に受講しやすくなった。
- ・ 全国各地の web セミナーを視聴できるから

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・直接出向かなくて済むようになったので
- ・動画だと見直せるので理解が深まる
- ・妊娠出産育児をしながらも遠隔地の学会や勉強会に参加したり、全国の医師とミーティングすることが容易になりました
- ・妊娠中でも国際学会で発表できました。国内学会でも遠方で開催されたとしても子どもをみながらでも参加でき、参加を諦めなくてよくなりました。
- ・北海道在住なので遠方の学会や講演会の交通費がかなり高くなかなかいけなかった オンラインだと教育の機会が増え、また動画を巻き戻したり繰り返し見たりして、より理解が深まる
- ・無理して行かなくても良くなったのはありがたいです。往復の時間の短縮、交通費の節約。
- ・様々な講演を聴講でき、新しい知見を得られる
- ・旅費への制限があり、遠方へ行くのを遠慮していたがオンライン学会が増えたので参加しやすい

##### \*\*変わらない

- ・「教育」業務に携わることがないため
- ・ウェブ授業でもやることは変わらないから。
- ・オンデマンドなど便利になった一方、ハンズオンなどできることが減った
- ・オンラインでの教育業務には元々関わっていないため
- ・以前より良いのか悪いのかわからない
- ・医師は学会の移動時間の節約でよい。学生や研修医は学会参加減少で悪い。
- ・家事や育児があり遠方には行けないし、行かなければならない場合でも、それが減るわけではないので物理的にも、精神的にも負担が大きかったが、オンライン参加できることでそれが軽減した
- ・学会に気軽に参加できるメリット、オンライン講義のデメリット
- ・学会参加と自分の教育業務は関係ないから
- ・学生実習ができないのはマイナスでした。
- ・関係ないと思います。
- ・教育には参加していません
- ・現在教育に携わっていない。
- ・参加する場所を問わなくなったけれど、ネットだと臨場感に欠けて集中しにくい
- ・子育てのために遠方に行くことが困難で参加不可能であった学会などに参加でき、ICT化は今後も継続するべきと考える。
- ・自身が非常勤勤務だから。
- ・特に変化を感じない

##### \*\*悪くなった

- ・オンデマンドになって、出張に行かないので通常業務をしないといけないから
- ・オンラインの講義は反応がなく一方的な感じがする。
- ・オンライン学会参加は、診療業務中には視聴時間がとりづらい。
- ・ここ3年の学生は質の上がったオンライン授業は受けられている一方、臨床実習の機会がどうしても制限されているようにみられる
- ・ハンズオンが減った
- ・教えている内容は同義だが伝わっていない印象
- ・現場に行かないと学べないこともあるため。
- ・大学授業に関しては全てがオンラインだと集中力が欠けてしまうと思う。ただ、意欲のある人にとっては現地に行かなくても教育の場が増え、良い点もあったと思う。学会に関しては現地よりもオンラインの方が聞き取りやすいし、何度も見られる点は非常に良い。
- ・反応がみえない。聞いてないことも多い。
- ・臨床現場を体感してもらえず、科の魅力が伝わりきらない

##### 医員・回答しない

##### \*\*悪くなった

- ・教育の「結果」を判断することは現時点では困難だが、オンラインでは個々での視聴が中心となるため、現場での議論が減っている。また、同分野の先駆者との交流も減り、学習の機会がやや減っている印象である。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

##### 専攻医・男性

##### \*\*良くなった

- ・いつでもどこからでも参加できる
- ・オンライン開催であると参加のハードルが低いから。
- ・コロナ禍でもオンラインにより教育を続行できる。
- ・どこでも気軽に勉強会ができるようになったから。
- ・バーチャルスライドの供覧など、時間に縛られない病理標本の供覧が可能になったため
- ・ビデオ講義ができるようになった。
- ・わざわざ現地に行かないで済むので、無駄な移動時間がなくなった
- ・わざわざ現地に行く必要がなくなった、その選択肢が出現したのはパフォーマンス向上には良いと考える。
- ・移動コストが減って効率化された
- ・移動などの時間が短縮された
- ・移動のための時間が減るから。
- ・移動の手間が省ける
- ・移動時間の短縮と情報の非対称性の改善が診療や研究全般の効率化が進んで知ると思います。
- ・院生として教えられる側としては、仕事の合間にできるので助かった。
- ・学会でオンライン、オンデマンド配信の導入があることで、学会参加・学習できる機会が増えた。
- ・学会における卒後教育セミナーなどの参加がオンラインでできるのはありがたい。
- ・学会参加しやすい。
- ・学生が自宅で会議に出られている
- ・教育のタイミングが増えた
- ・教育へのアクセスがしやすくなったから
- ・現地にいかなくてよく参加しやすくなった
- ・現地にしかなくてもオンラインで参加できるから楽になった。
- ・現地に移動することがなくなったため、手軽に学会や講義に参加することができるようになった。コロナ窩におけるオンライン化は、日本人が少子高齢化の波の中を生き延びる方法の1つとして極めて有望な方法であろう。医療界全体としても、このオンラインシステムを活用することによって世界に打って出ること、さらには医療ビジネスモデルの構築に繋がる可能性があり、少子高齢化の波に即したJapan's wayとなる新たなモデルを構築し、世界に発信したいところだ。そして、高齢化の世界最先端を走る東北こそがそのモデルを作り上げるチャンスである。
- ・現地に行く手間が省ける。
- ・現地に赴かなくても講義を拝聴できるため、参加するにあたり仕事の都合がつけやすくなった
- ・交通にかかる費用と時間、労力が減ったため、より参加しやすくなった。その分新しい知見が手に入りやすくなった。ただ、直接向かい合って話す機会が減ったため、意見交換を交わす機会が減ったという欠点もある。
- ・効率的になった
- ・今までは現地でなければ得られなかったような情報が、オンラインで得られるようになったから。
- ・参加しやすくなった
- ・参加しやすくなった、ストレスの軽減
- ・参加するハードルが低くなったのは良いことだと思う。
- ・参加に移動の不便が問われなくなったため
- ・参加のための日程調節等が簡易となった。
- ・参加自体の日程で移動日を考慮しなくてよくなった
- ・時間と金の節約。
- ・時間短縮
- ・場所を問わずに参加できるため
- ・色々な講演会に気軽に参加できるようになった。
- ・双方向性は減るがもともと少ない。SNS形式の方が質問しやすい。暗記科目なので繰り返し見られるのはよい
- ・多くの勉強会に参加できるようになった
- ・多様な学会に参加する機会が増えたため
- ・地域在住のためアクセス面でwebはありがたい
- ・日常業務で現地に行くことができない状況であっても、オンラインで学ぶことが可能となり、教育の効率化が進んだため。
- ・不必要な移動の時間、復習用に授業の見直しなど

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 普段関わらない人とも話すことが可能となった
- ・ 便利
- ・ 勉強できる機会が増えた。
- ・ 勉強会や学会への参加ハードルが下がったように思う。

##### \*\*変わらない

- ・ オンラインで気軽に参加できるようになった一方で、オンラインが故に質疑応答や交流がしづらくなったため、結果的には良くなった箇所と悪くなった箇所があり、総合的には変わらないと思う。
- ・ オンライン未導入
- ・ このまま活用、発展させていければよいが、授業は費用や準備の面から結局対面方式へ戻る方向にシフトしている。
- ・ してない
- ・ メリットもデメリットもあるから
- ・ 学会参加の準備時間は変わらないため
- ・ 学生に対する教育で、オンサイトで生の患者さんから学ぶ機会は減った印象はある。しかし、シミュレーションをうまく用いたり、これまでオンサイトでしかしていなかった講義がオンラインで全国どこでも見られたりなど、良くなった部分もあると考える。
- ・ 教育には現状携わっておりません
- ・ 教育に携わっていないため。
- ・ 教育の有無と勤務時間は関係ないため
- ・ 教育はあまり行っていない
- ・ 教育業務を行っていない
- ・ 今年から赴任しており、比較検討は難しい。
- ・ 自身がオンライン講座を開催したことがなく、変化がわからないから。
- ・ 特に関連はないように思う
- ・ 特に変わった感覚はない
- ・ 変化はそれほどありませんでした。

##### \*\*悪くなった

- ・ 外部の同業者と接触する機会が減った
- ・ 参加する際の集中がしにくい。
- ・ 対面でできることが減ったため(対面でのディスカッション等)

#### 専攻医・女性

##### \*\*良くなった

- ・ web 参加により色々な学会への参加もしやすくなった
- ・ アクセスしやすくなった
- ・ オンラインで気軽に勉強ができますから。
- ・ オンラインで講演会等に参加しやすくなった
- ・ オンラインによって参加できる数は増えている
- ・ オンライン講義を受けられるようになり参加しやすくなった。
- ・ こどもがいるのでオンラインで受講できるのは大変ありがたいです
- ・ どこでも参加できて、最新の情報が得られるようになったから。
- ・ どこにいても参加できる
- ・ わざわざ出向かなくてよくなった
- ・ 移動せずとも学会などに参加できる
- ・ 移動という無駄な時間を削減できた
- ・ 移動の手間が省けるから
- ・ 移動時間が減ったことにより、準備にあてる時間が増えた。
- ・ 移動時間を考慮せずに参加ができるので、会議学会参加の可能性が増えた
- ・ 移動時間短縮につながった
- ・ 育児中でも自宅から参加できるのがありがたい。
- ・ 育児中のため現地に行かなくても参加できる

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 遠距離でも気軽に参加でき場合によってはあとから見返すことができるため
- ・ 会場に向く時間が省けるため
- ・ 学会に参加しやすくなった
- ・ 気軽に参加できる
- ・ 現地に行かなくても参加できると仕事しながらでもできるから
- ・ 現地に行かなくても良くなったから
- ・ 現地に参加できなくても講義や会議・学会に気軽に参加できるため
- ・ 現地参加でない分所要時間が短くなった。
- ・ 講義や学会に参加しやすくなった
- ・ 参加できる機会が増えたから。
- ・ 仕事上の都合で参加できなかった学会に参加できるようになった。
- ・ 時間、場所の制約が緩くなり、参加しやすくなった。参加することによる普通の生活に及ぼす影響が小さくなった。
- ・ 時間が取られなくなった
- ・ 時間の効率化が進んだ
- ・ 時間を有効に使える
- ・ 質の悪い(時間対効果の低い)講義を聞かなくてよかった
- ・ 場所を選ばず参加しやすい
- ・ 地方で参加できなかった学会にも参加できる
- ・ 同じ時間帯に開催されている演目の視聴がオンラインでは可能となるため
- ・ 本来現地であれば参加できなかった学会にも気軽に参加できる。開催期間中に何度も動画を見ることで知識の定着をはかれる教育、研究、診療に活かせるから。今後もぜひ続けてほしい習慣である。
- ・ 様々な会議・学会に参加できるようになった

#### \*\*変わらない

- ・ あまりする機会がない
- ・ オンラインオフラインともに一長一短と思う
- ・ オンラインでの教育に携わっていない
- ・ オンライン前の実態を知らないから。
- ・ 教育にほぼ関わっていないため
- ・ そこまで影響を感じていません
- ・ 遠方の学会に出やすくなった。一方で、現地の良さもある
- ・ 学会参加のオンデマンドがなくなってきている
- ・ 教育にはあまり携わっていないため
- ・ 参加するイベントは取捨選択しているから。
- ・ 良い点はオンラインであれば時間と場所の自由がきくこと、悪い点は診療と切り離される時間では無いのでしっかり講義をみられなくなること。
- ・ 良い面も難しい点も両方ある。

#### \*\*悪くなった

- ・ Zoom だからと言って夜遅くにスライドチェックや予演会を組まれる
- ・ 時間は短縮できたが、学生が患者と関わる実践は減ったので質は落ちた。
- ・ 質疑応答がやりづらくなった。
- ・ 実技による研修が中止になったため、いくつかの資格を取得できなかった
- ・ 実際に見ないとわからない
- ・ 双方向性の教育が難しくなった印象がある
- ・ 対面でしか得られない物があると思うし、集中力や頭への入りかたが全く違う。
- ・ 対面式の指導が減った
- ・ 直接実際の現場や手技を指導できないため、学生とのコミュニケーションが減り、学生からの医療現場に対する興味が減少している。
- ・ 非対面では頭に入らない

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

##### 臨床研修医・男性

###### \*\*良くなった

- ・ オンラインで済むような内容であれば、オンラインで行った方が参加者の負担も少ないことが多いため。
- ・ オンラインになった事で講義に参加しやすくなりました。
- ・ オンラインにより手軽に講義に出られるようになったため。
- ・ 移動時間の短縮
- ・ 移動時間が減った
- ・ 移動時間や待機時間がなくなったため
- ・ 遠方からの参加がしやすくなったから
- ・ 現地に行かなくても学会の情報が得られるため
- ・ 参加しやすくなった。
- ・ 積極的に参加できるようになった
- ・ 対面での負担が減るため

###### \*\*変わらない

- ・ オンラインが普及し、参加機会は増えたが、対面が減ったため、体験機会が減少した
- ・ 自分は教育される立場ですが、参加機会が増えた一方で、対面の人脈づくりができなくなり、全体としては失うもののほうが大きい気がする。
- ・ 質問もいつも通りできる

###### \*\*悪くなった

- ・ 直接対話ができない
- ・ 回線トラブルなど
- ・ 実臨床で患者を診る経験ができないケースが増えた。
- ・ 受講生の集中力の低下が顕著。

##### 臨床研修医・女性

###### \*\*良くなった

- ・ 移動時間が減って負担が減った。
- ・ 現地に行かなくても講演がきけるから
- ・ 参加しやすくなった
- ・ 時短勤務であっても自宅やオンデマンドで後からなど好きな時に教育を受けることができる。
- ・ 自由に参加可能となったため。
- ・ 不必要な待機時間が減った。
- ・ 勉強会に参加しやすくなった

###### \*\*変わらない

- ・ まだよくわからない

##### その他の医師・男性

###### \*\*良くなった

- ・ これだけ世の中にオンラインが浸透しているのにまだ授業は個別というのは無駄が多過ぎる。臨床実習は現場に出る必要があるがオンラインで対応できるもの(講義や学会)はどんどんオンライン化すべき。無駄を省かないと働き方改革で労働時間を減らすことは無理。大学や病院に個別対応を迫っても無理。表向きは労働時間減らしても裏ではブラック企業のように時間外を付けないで仕事をやることになる。
- ・ これまで参加できなかった学会に参加できるようになった。
- ・ どこでも受講できるようになり利便性が向上した。
- ・ 移動時間や会議自体の無駄が減った。発現しやすい環境になった。
- ・ 遠隔地での会合に出席しやすくなった
- ・ 遠距離でも参加しやすくなり、学習の機会は増えた。オンデマンドがあると更に時間を有効に使えるようになった。
- ・ 遠方開催の学会でも web 開催の場合、スキマ時間でも参加できたりオンデマンド視聴で就業後の自己研鑽時間で勉強できた

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

りなど手軽に教育を受けることができるようになった。

- ・教育に充てる時間が増えた
- ・現地にいなくても、会議・学会に参加できるため
- ・現地に行く手間が省けて、経済的
- ・現地参加せずとも興味のある講演を聞くことができるようになった。
- ・自宅からの参加が可能となった
- ・自分の講義が見えるようになったので、自分の講義の改善に役立ちます。
- ・出張が減少したため。
- ・同じ時間に開催されているものでも視聴可能になった
- ・無駄な時間が減った

##### \*\*変わらない

- ・オンラインでできることがわかって教育方法の選択肢が増えたことは良かったが、ハード・ソフト面で改善点が多く、一方通行・表面的なものになりやすい。
- ・移動の手間が減り、参加しやすくなった。能動的に学会に参加できる人は有用だが、受動的に参加する人にとっては得られるものが減った印象。
- ・方式が変わるだけで、意識をもってやれば大きくは変わらない。
- ・利点と欠点の両方がある
- ・良い面と悪い面があり相殺して変わらない

##### \*\*悪くなった

- ・オンラインでのコミュニケーションには限界があるから。
- ・ハイブリット開催によって、今まで参加しづらかった勉強会等に参加しやすくなった一方、学会は現地に参加して対面で聴講しディスカッションすることで、得られる知識も人の繋がりも大きいと思う。
- ・学生が授業に集中しなくなった
- ・熱意等、実際の熱量が伝わりにくい。

#### その他の医師・女性

##### \*\*良くなった

- ・オンラインの方が手軽
- ・スライドの撮影が可能となったので、プレゼン内容の学習、紹介が容易になった。
- ・どこでも視聴できる
- ・移動にかかる時間や費用が抑えられるため
- ・育児であきらめていた学会にも参加ができるようになった
- ・育児中でも学会に参加しやすい。
- ・遠方の学会に参加しやすくなった
- ・会場に行くための時間が省略できる。気軽に勉強会への参加ができる
- ・学会には参加しやすかったが、時間外に参加することになった
- ・学会に参加しやすくなった
- ・学生のもとへ出向く授業が減り、移動時間短縮になった。しかし、授業内容を工夫しないと学生の反応がわかりづらい。
- ・楽になった
- ・現地に行かなくても学会に参加でき、勉強のチャンスが増えたから。
- ・子育てしながらでも参加しやすい
- ・子供がいても、web上で参加できる。
- ・子供がいても学会に参加できるようになった。
- ・自宅から参加できるので子育て中でも参加しやすいため
- ・準備は大変だが、移動時間などの時間が省けるようになった。
- ・場所を選ばずに出席できるようになった。
- ・地方の医師も学会にアクセスしやすくなった。
- ・地方大学にいたので、学会等で移動をせずオンラインで参加ができるようになったことは良い点だと思います。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

##### \*\*変わらない

- ・ 教育は、実習での学生への教育が主だから
- ・ 教育業務へ関与がないから
- ・ 現在、教育業務に携わっていないため、わかりません。
- ・ 時間を制約されるのは同じ
- ・ 利点欠点どちらもああるから
- ・ 良くなったところと悪くなったところで相殺されるから。

##### \*\*悪くなった

- ・ オンラインの講義は増えたが質が良くなったとは言えない
- ・ 個々でオンラインを聞くよりも、直で講演を聞く方が緊張感があり、質問も盛んであるから。
- ・ 対面の方が真剣に聴く可能性が高い

##### その他の医師・回答しない

##### \*\*変わらない

- ・ 他分野を聴講する機会は恵まれたが、人に会って発表するまたは聞いて培う、他病院の先生との相互理解を育めない。

##### その他(特任研究員など)・男性

##### \*\*良くなった

- ・ リモート環境での活動が進んでいないことが露呈し、必然的に普及した。
- ・ 遠方の学会にも参加しやすくなったから
- ・ 時間に余裕ができた
- ・ 全く変わっていなかった部分を改訂するよいタイミングとなった。より効率化を意識するようになった。気軽に参加できるようになった。
- ・ 無駄を省けます

##### \*\*変わらない

- ・ 教育業務にはほとんど関わっていない。
- ・ 資料作成や講義時間などの割く時間自体はかわらない

##### \*\*悪くなった

- ・ 相手の反応がわかりにくい。自分としてはながら視聴が増えた。

##### その他(特任研究員など)・女性

##### \*\*良くなった

- ・ オンサイトで発生する移動時間等の負担が軽減されたため。
- ・ オンデマンドだから参加しても良いと思うこともある。
- ・ オンラインセミナーによる遠隔の人たちの参加が増えた、海外演者の招聘が楽になった
- ・ オンラインという選択肢が増えたため
- ・ これまで参加出来なかった学会や会議に参加出来るようになった
- ・ より気軽に参加しやすくなったため。
- ・ 移動の無駄が減った、参加しやすさが上がった
- ・ 移動時間が減る
- ・ 移動時間の短縮が良い
- ・ 育児中のためオンラインでないと参加が難しいため
- ・ 学会(出張)は、移動を伴うので業務・家庭内調整が必要で、参加するにはハードルが少し高かったが、オンラインによって業務もしつつ参加したり等、参加もしやすくなった。
- ・ 気軽に参加しやすくなった
- ・ 教育者側も、移動する時間や準備に膨大な時間を割く事が減ったので、より質の高い教育を合理的に提供することが可能になった
- ・ 業務を休んで遠方まで学会参加などに行かなくても済むようになったのと、子育てしながらでも参加しやすくなった。

#### 40. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「教育」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 県外に行く必要がなくなった。
- ・ 時間がよめる
- ・ 出張が減った
- ・ 離れた場所へ行かなくても Zoom で研修を受けることができるようになった

##### **\*\*変わらない**

- ・ オンライン講義では学生のやる気しだい
- ・ 慣れない業務内容で苦しむ人もあるが慣れればオンラインは対面しなくていいので精神的に楽だと思う。
- ・ 教育に携わっていない
- ・ 教育業務はしていないので
- ・ 直接講義に関わるのが少ないため
- ・ 特に感じたこともないので

##### **\*\*悪くなった**

- ・ オンライン講義を受けても、資格を持っていない私たちにとって何のことだか分からない講義もある。
- ・ 機器の準備に時間を要す
- ・ 実習の機会が無くなったことで学生が実際の医療の現場体験する事ができなくなった。
- ・ 実習時間などの削減
- ・ 直での Communication にはかなわない部分がある

##### **その他(特任研究員など)・回答しない**

##### **\*\*良くなった**

- ・ 現地参加が難しい場合に役立つているが、顔が見えないことによる負の影響もある